

## 第4章 特徴ある傾向

本章は、情報活用能力の3観点の調査結果、質問紙・質問調査の結果、文字入力結果のうち特徴的なものをまとめたものである。

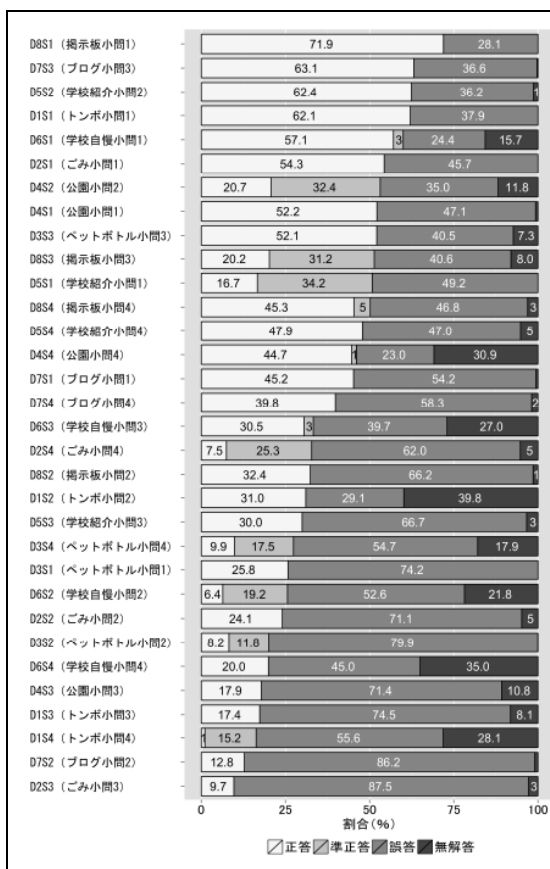
なお、本書において大問を「D」、小問を「S」と表記しているが、これは例えば「D1S2」とあれば、「大問1の小問2」を指している。

## 4-1 問題調査の結果概要

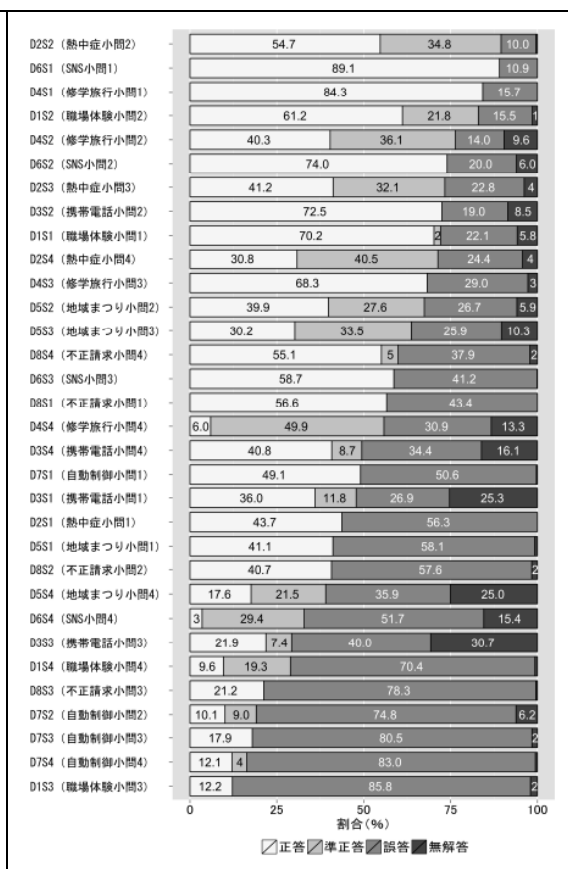
### 4-1-1 通過率

**調査問題の通過率で、小学校において最も高いものは71.9%、最も低いものは9.7%であり、中学校において最も高いものは89.5%、最も低いものは12.2%であった。**

図表 4-1-1a 問題調査での通過率（小学校）



図表 4-1-1b 問題調査での通過率（中学校）



※ 通過率とは、問題ごとの正答率と準正答率を合わせたものである。

※ 問題調査では、小問4問で構成される大問が8問あり、小学校、中学校いずれも小問32問。1人の児童生徒は大問8問中、児童生徒ごとに選定された4問（小問換算で計16問）を受検。

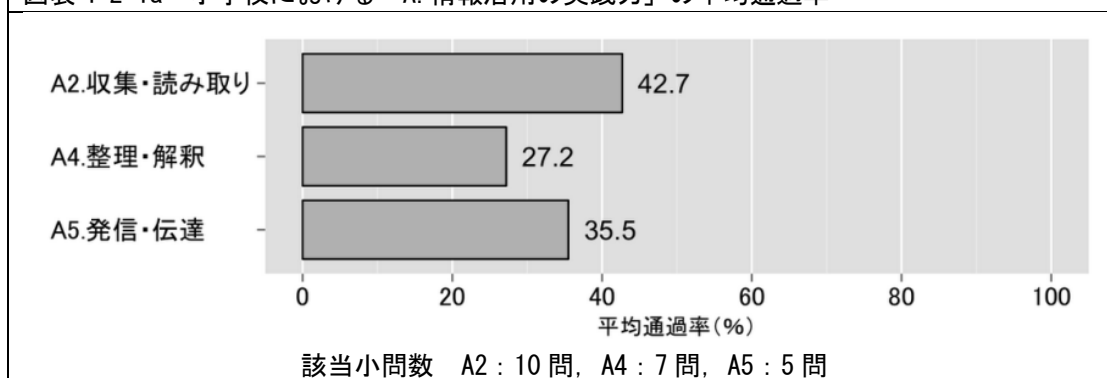
## 4-2 A 観点「情報活用の実践力」

### 4-2-1 「A. 情報活用の実践力」小学校・中学校の状況

小学校の「A. 情報活用の実践力」の各能力カテゴリーの平均通過率は「収集・読み取り」は42.7%、「整理・解釈」は27.2%、「発信・伝達」は35.5%であった。

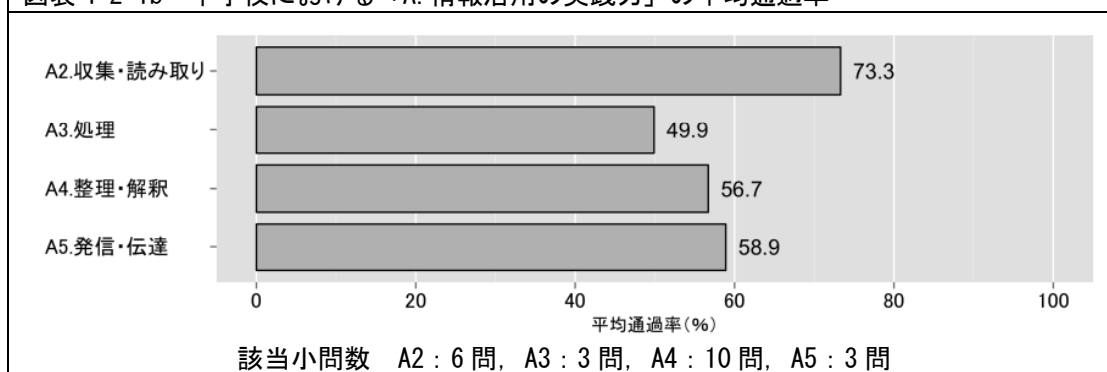
中学校の「A. 情報活用の実践力」の各能力カテゴリーの平均通過率は「収集・読み取り」は73.3%、「処理」は49.9%、「整理・解釈」は56.7%、「発信・伝達」は58.9%であった。

図表 4-2-1a 小学校における「A. 情報活用の実践力」の平均通過率



※ 上記グラフは、カテゴリーごとの平均通過率の割合を示したグラフである。

図表 4-2-1b 中学校における「A. 情報活用の実践力」の平均通過率



※ 上記グラフは、カテゴリーごとの平均通過率の割合を示したグラフである。

## 4-2-2 問題調査例 (A1. 操作)

### ①検索, 情報アクセス, 情報の読み取り

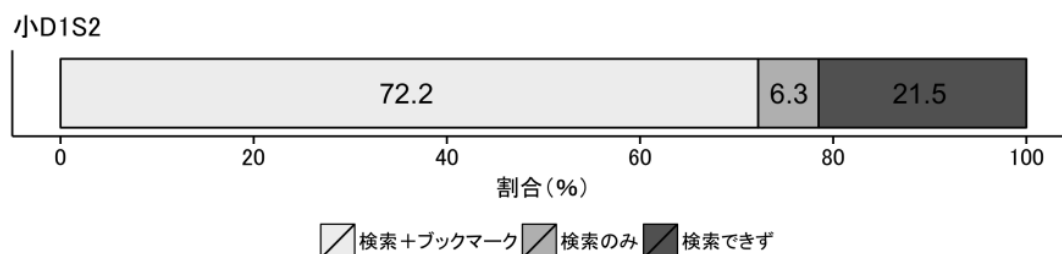
ウェブ検索 (検索キーワード入力及びブックマーク登録の操作) することができた小学生は約7割であった。

#### 【該当問題】

・小学校 D1S2 トンボ小問 2 (非公表) : 通過率 31.0%

※ 小学校 D1S2 トンボ小問 2 : ウェブ上で検索し, 目的のサイトをブックマークに登録する問題

図表 4-2-2 検索キーワード入力及びブックマーク登録の操作率 (非公表問題)



- ※ 児童の解答状況のログ記録を基に算出している。なお, 操作率とは, キーワードを入力して検索する操作及びサイトをブックマークする操作ができた児童の割合である。
- ※ 「検索+ブックマーク」とは, キーワード検索ができ, かつ何らかのサイトをブックマークに登録する操作ができたものとする。
- ※ 「検索できず」とは, 正しい検索キーワードで検索できなかったものとする。

#### 【問題イメージ】

図表 4-2-3 操作問題のイメージ



#### 【正答】

小学校 D1S2 : 「T 市立トンボ自然公園」のページを「お気に入り」に登録しているもの

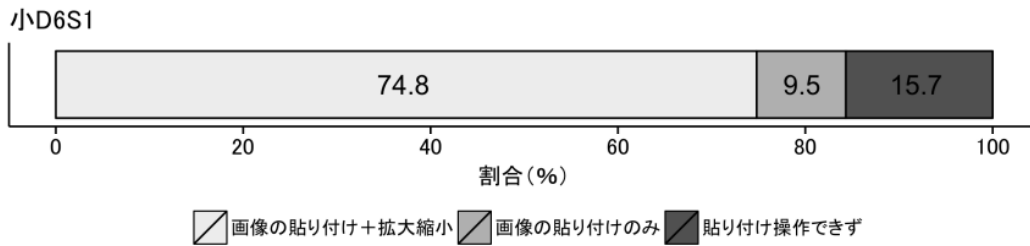
②スライドに画像を添付し，拡大縮小する

画像の貼り付け，拡大・縮小ができた小学生は約8割，プレゼンテーションソフトでのスライドの挿入，テキストボックスへの記述ができた中学生は約9割であった。

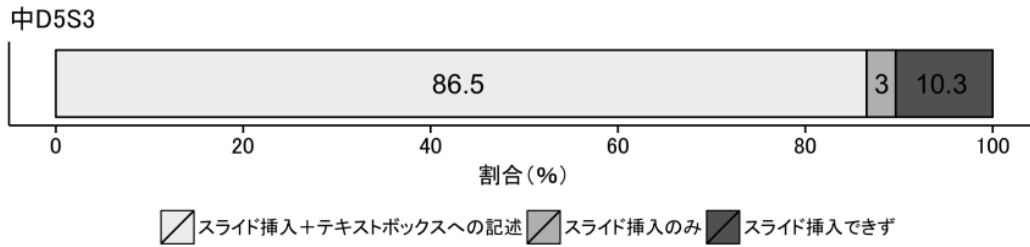
【該当問題】

- ・小学校 D6S1 学校自慢小問1（非公表）：通過率 60.0%
- ・中学校 D5S3 地域まつり小問3（非公表）：通過率 63.7%

図表 4-2-4 画像の貼り付け，拡大・縮小の操作率（非公表問題）



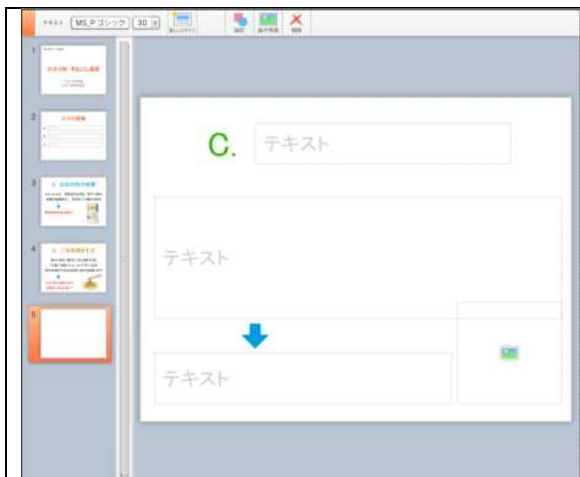
図表 4-2-5 スライドの挿入，テキストボックスへの記述の操作率（非公表問題）



※ 児童生徒の解答状況のログ記録を基に，画像の貼り付けやスライド挿入等ができた割合を算出している。なお，操作率とは，スライドに画像を貼り付け適切な大きさに画像を拡大縮小した正答の割合（図表上）。また，スライドを新たに挿入し，テキストボックスへ適切に記述した正答の割合である。

【問題イメージ】

図表 4-2-6 スライド作成問題のイメージ



## 問題調査例（A2. 収集・読み取り）

### ①表情報をもとに情報を分類，整理

整理された情報を読み取ることができた小学校は約6割，中学校は約8割であった。

#### 【該当問題】

- ・小学校 D5S2 学校紹介小問2（公表）：通過率 62.4%
- ・中学校 D4S1 修学旅行小問1（公表）：通過率 84.3%

図表 4-2-7 情報の読み取りの問題（小学校） D5S2 学校紹介小問2 通過率 62.4%

問2 たろうさんのはんでは，ほご者のかた，地いきのかた，校長先生，6年生に，「メタセコイア」と「冬のコンサート」についてインタビューし，右の表のようにまとめました。その内ようとして正しいものを，下の1から4までの中から1つ選びましょう。

- 1 . ほご者のかたはメタセコイアについて，地いきのかたはコンサートについて，それぞれ説明している。
- 2 . ほご者のかたはメタセコイアについて，校長先生はメタセコイアとコンサートの両方について，それぞれ説明している。
- 3 . 校長先生はコンサートについて，小学6年生はメタセコイアとコンサートの両方について，それぞれ説明している。
- 4 . 地いきのかたはメタセコイアについて，小学6年生はコンサートについて，それぞれ説明している。

インタビューの相手	インタビューの内よう
ほご者のかた	<ul style="list-style-type: none"> <li>・メタセコイアの木にかざりつけをするのは楽しいですよ。</li> <li>・かざりつけのお礼に子どもたちが冬のコンサートをはじめてくれた。</li> </ul>
地いきのかた	<ul style="list-style-type: none"> <li>・わたしが第一小学校に通っていたのは50年前になる。</li> <li>・メタセコイアの木は，昔から大切にされていた。</li> </ul>
校長先生	<ul style="list-style-type: none"> <li>・メタセコイアはほかの木とくらべて成長が早く、大きくりっぱな木になる。</li> <li>・メタセコイアの木のようにみなさんが大きくりっぱに成長してほしいと願っている。</li> </ul>
小学6年生	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎年5年生が、コンサートの司会をしたりじゅんぴをしたりする。</li> <li>・5、6年生は、1年生から4年生とちがって、歌以外に合そうもする。</li> <li>・毎年歌う歌を子どもたちがきめる。</li> </ul>



#### 【正答】

小学校 D5S2：選択肢4と解答しているもの

②ホームページからの情報の読み取り

**異なる構成のウェブページから目的の情報を読み取ることができた小学生は約2割、中学生は約4割であった。**

【該当問題】

- ・小学校 D1S3 トンボ小問 3（非公表）：通過率 17.4%
- ・中学校 D2S1 熱中症小問 1（公表）：通過率 43.7%

【問題例】

図表 4-2-8 情報の読み取りの問題（中学校） D2S1 熱中症小問 1 通過率 43.7%

問1 熱中症についての右のホームページを読んで下の1から5までの中から当てはまらないものを1つ選びましょう。

- 1. 汗(あせ)には塩分もふくまれているので、0.2%程度の塩分も補給する必要がある。
- 2. 建物の中にもいても、熱中症になることもある。
- 3. 冬でも、運動すると、熱中症になることがあり、死亡することもある。
- 4. 平成24年の夏期の熱中症による救急車出動の年齢(ねんれい)別の割合は、50%以上が高齢者である。
- 5. かぜのときに飲む解熱剤(げねつざい)は、熱中症には効かない。

【正答】

小学校 D1S3：選択肢 1 と解答しているもの

③検索， ホームページ情報をもとに適切なものを判断

ウェブページの階層化されたリンク先をたどって， 特定の情報を見つけ出し関連付けることができた小学生は約 1 割であった。(小学生のみに出題)

【該当問題】

- ・ 小学校 D2S3 ごみ小問 3 (公表) : 通過率 9.7%

図表 4-2-9 D2S3 ごみ小問 3 のリンク先 閲覧一覧

ページ階層数	ページ				
	2	3			
ページ名	分別方法 (ゴミの収集日)の頁	燃やすごみ	プラスチック製容器・包装	リサイクルできる紙	缶、びん、ペットボトル
正答者+誤答者の閲覧した割合(%)	74.8	28.5	35.9	21.7	19.4
正答者のうち閲覧した割合(%)	82.6	70.8	72.7	50.3	44.1

※ 網かけした項目は， 正答に関するページからのリンク先

【問題例】

図表 4-2-10 情報の読み取りの問題 (小学校) D2S3 ごみ小問 通過率 9.7%


問3 自分たちのホームページを，多くの人に見てもらうために「ごみの分別クイズ」のページを加えることにしました。

右の画面のように「S市では，写真のようなごみを何曜日にするのでしょうか？」というクイズを考えました。


このクイズの答えは，何曜日でしょうか。S市のホームページを見て調べ，当てはまるものを下の1から5までの中から全て選びましょう。

右側の問題の画面にもどりたい時は，各ホームページの右上にある，赤色の「×」ボタンをクリックしましょう。

1. 月曜日  
 2. 火曜日  
 3. 水曜日  
 4. 木曜日  
 5. 金曜日



リンク先イメージ図



【正答】

小学校 D2S3 : 選択肢 2・5 を選択しているもの



### 4-2-3 問題調査例 (A3. 処理)

#### ①目的に合ったグラフを作成する

**グラフ化に必要なデータの範囲や、目的に合うグラフ形式を判断し、処理することができた中学生は約3割であった。(中学生のみに出題)**

**【該当問題】**

- ・ 中学校 D3S3 携帯電話小問3 (公表) : 通過率 29.3%

**【問題例】**

図表 4-2-11 情報の処理(グラフ化)の問題(中学校) D3S3 携帯電話小問3 通過率 29.3%

問3 広美さんは、ゲーム機と携帯電話の使用時間の平均では1組と2組は同じだとわかりましたが、平均だけでは何時間くらい使用している人が多いのかよくわからないと思いました。

そこで、2年1組には、使用時間が何時間くらいの人が、どれくらいの数いるのか、右のように表にまとめました。

この表をもとに、2年1組の使用時間と人数の分布がわかるグラフを作りましょう。

※やり方がわからない人は[?(ヘルプ)]をクリックしましょう。

※比ベにくくなるので、グラフの中には、合計の人数は入れないように、注意しましょう。

2年1組	
合計使用時間	人数
1時間未満	3
1時間以上2時間未満	6
2時間以上3時間未満	12
3時間以上4時間未満	14
4時間以上	4
合計	39

**【正答】**

中学校 D3S3 : 正しい範囲を選択して、棒グラフを作成しているもの

#### 4-2-4 問題調査例 (A4. 整理・解釈)

##### ①意見の分類, 整理

カードに書かれた複数情報から共通する観点を見つけ出して、整理・解釈することができた小学生は約2割であった。一覧表示された複数の情報を、提示された条件をもとに整理・解釈することができた中学生は約7割、一方、複数のウェブページから目的に応じて整理・解釈することができた中学生は約3割であった。

- ・ 小学校 D4S3 公園小問3 (公表) : 通過率 17.9%
- ・ 中学校 D1S4 職場体験小問3 (非公表) : 通過率 12.2%
- ・ 中学校 D2S4 修学旅行小問2 (非公表) : 通過率 76.4%

##### 【問題例】

図表 4-2-12 情報の整理の問題 (小学校) D4S3 公園小問3 通過率 17.9%

問3 たろうさんのはんでは、平日の午後に公園を利用する人に、「公園でこまっていること」と「新しい公園で実げんしてほしいこと」を聞き取り調査(ちょうさ)することにしました。右のアからシのカードは聞き取ったことをかんたんにとまとめたものです。カードを、右の表の見出しの当てはまるところにドラッグして入れましょう。

##### 【カードの分類】

- ・ 黄色のカード 子どもたちの意見
- ・ 水色のカード おとしよりの意見
- ・ ピンクのカード 赤ちゃん連れの人意見
- ・ 緑色のカード その他、公園を利用していた人の意見

遊び道具のこと	自然のこと
こまっていること	こまっていること
実げんしてほしいこと	実げんしてほしいこと
道具以外のせつびのこと	ボール遊びのこと
こまっていること	こまっていること
実げんしてほしいこと	実げんしてほしいこと

\*「ドラッグ」とは、マウスを左クリックしてカードを動かすことです。一度表に入れたものも、動かすことができます。

※ 12枚のカードを4つの観点で整理

##### 【正答】

小学校 D4S3 :

- ・ 遊び道具 (困る : ケ 実現 : ア・ウ)
- ・ 自然 (困る : サ 実現 : オ・ク)
- ・ 設備 (困る : エ 実現 : コ・シ)
- ・ ボール (困る : キ 実現 : イ・カ) または (困る : キ・カ 実現 : イ)

## ②グラフ情報をもとに適切なものを判断

グラフの目盛りの値や間隔が違うと情報の伝わり方が変わることを判断できた小学生は約2割、平均値は同じだが最大値や最頻値の異なる2つのグラフの違いを判断できた中学生は約5割であった。

### 【該当問題】

- ・ 小学校 D3S2 ペットボトル小問2 (公表) : 通過率 20.1%
- ・ 中学校 D3S4 携帯電話小問4 (非公表) : 通過率 49.5%

### 【問題例】

図表 4-2-13 グラフ情報の解釈・判断の問題 (小学校) D3S2 ペットボトル小問2 通過率 20.1%

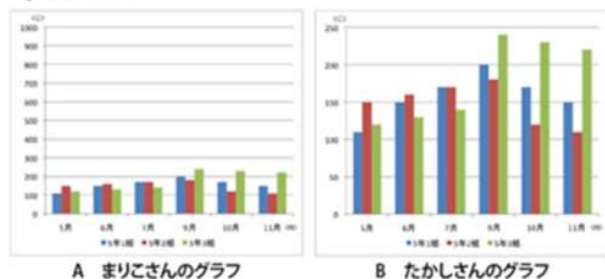
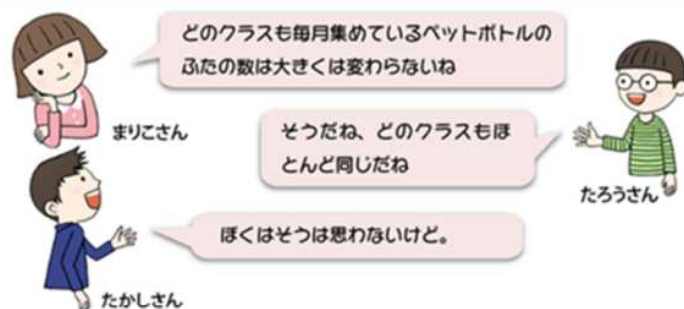
問2 次にたろうさんたちは、各クラスが、月ごとにどのくらいペットボトルのふたを集めているかについてグラフにしました。

リサイクル委員のまりこさんからはAのグラフが、同じリサイクル委員のたかしさんからはBのグラフが出されました。

右の会話のたろうさんの意見について、あなたはどのように思いますか。

下の「賛成 (さんせい) する」「賛成しない」のどちらか1つを選びましょう。

また、その理由を「まりこさんとたかしさんのグラフは、」に続けて、30字でいどで下のかいとうらんに書きましょう。



※ 他者の意見から2つのグラフを比較してグラフの相違点について判断

### 【正答例】

小学校 D3S2 :

[選択] 「賛成しない」

[理由] めもりの幅が違うので、たかしさんのだと数がちがうことが分かるから

### ③情報をもとに、自分の考えをまとめる

分類した情報をもとに、課題を解決するために調整した内容を提案することができた小学生は約5割、試行錯誤した経験をもとに、他者に対し解決に向けて提案をすることができた中学生は約6割であった。

#### 【該当問題】

- ・ 小学校 D4S4 公園小問4（非公表）：通過率 46.1%
- ・ 中学校 D4S4 修学旅行小問4（公表）：通過率 55.8%

#### 【問題例】

図表 4-2-14 課題解決の提案の問題（中学校） D4S4 修学旅行小問4 通過率 55.8%

問4 直樹さんたちのグループでは、C, D, H, Gの見学先と順序をルート探索ソフトで計算したところ、17:15までにもどってくることができず困っています。あなたのグループがルート探索ソフトで調べたときの経験を生かして、直樹さんたちのグループのコースへのアドバイスを下の解答らんに書きましょう。

#### 【条件】

- ・ 見学先を減らしたり、変更（へんこう）することはできません。
- ・ 活動時間は13:00から17:15までです。この時間を変更することはできません。
- ・ 出発、帰着地はZ駅です。この場所を変更することはできません。



※ 経路シミュレーションの利用経験を生かして他者に対し解決に向けてのアドバイスを提案

#### 【正答例】

中学校 D4S4 :

D から H まで歩くと時間がかかるので、H の前に G にバスで行くといいと思う。

## 4-2-5 問題調査例（発信・伝達）

### ①スライドに画像を添付し，その画像を選んだ理由を記述

扱う情報や情報手段の特性を理解し，受け手を念頭においた表現方法を工夫することができた小学生は約3割，中学生は約4割であった。

#### 【該当問題】

- ・小学校 D6S3 学校自慢小問3（非公表）：通過率 33.3%
- ・中学校 D5S4 地域まつり小問4（公表）：通過率 39.1%

#### 【問題例】

図表 4-2-15 スライド作成による発信・伝達の問題（中学校）D5S4 地域まつり小問4 通過率 39.1%

問4 第一中学校として出展内容について，アピールする内容を最後のスライドにまとめます。①から③の作業をしましょう。

- ①スライド上の見出しを入力しましょう。
- ②出展内容をアピールするようにテキストや図形，イラストを選んで配置を工夫しましょう。
- ③このスライド作成で工夫した点について下の解答らんにも書きましょう。

※スライド作成の仕方

上の[図形][絵や写真][テキスト]をクリックすると挿入(そうにゆう)できます。配置したものを拡大することもできます。また，削除(さくじょ)することもできます。入力した文字の大きさも変えることができます。



#### 【正答例】

中学校 D5S4 :

##### (正答例1)



やる内容にあった絵をいれた。

##### (正答例2)



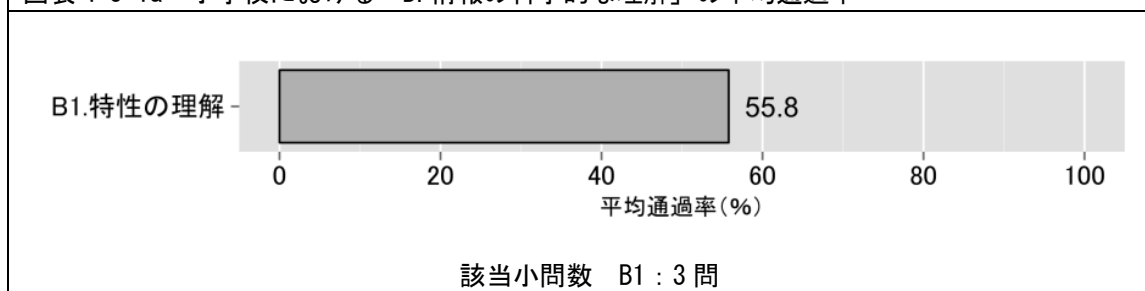
各学年が一番伝えたいことをアピールした。

## 4-3 B 観点「情報の科学的な理解」

### 4-3-1 「B. 情報の科学的な理解」小学校・中学校の状況

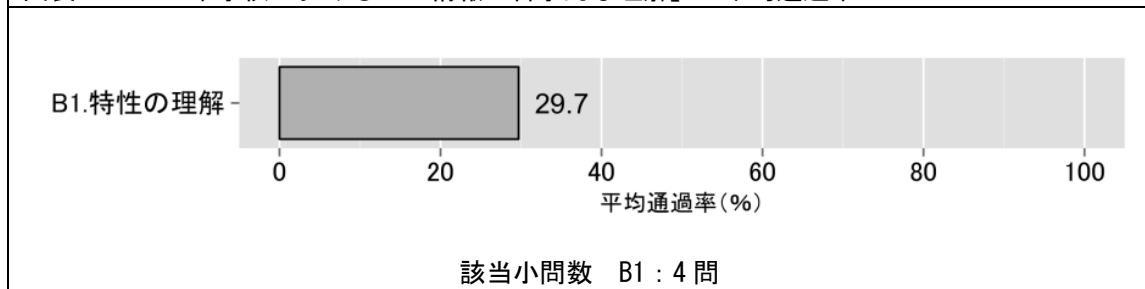
「B. 情報の科学的な理解」における平均通過率は、小学校は 55.8%、中学校は 29.7%であった。

図表 4-3-1a 小学校における「B. 情報の科学的な理解」の平均通過率



※ 上記グラフは、カテゴリーごとの平均通過率の割合を示したグラフである。

図表 4-3-1b 中学校における「B. 情報の科学的な理解」の平均通過率



※ 上記グラフは、カテゴリーごとの平均通過率の割合を示したグラフである。

## 問題調査例

### ①情報通信技術の特性の理解

電子掲示板における情報の伝わり方や広がり方を理解している小学生は約7割、SNSにおける情報の拡散性を理解している中学生は約3割であった。

#### 【該当問題】

- ・ 小学校 D8S1 掲示板小問 1 (公表) : 通過率 71.9%
- ・ 中学校 D6S4 SNS 小問 4 (非公表) : 通過率 32.9%

図表 4-3-2 中学校 D6S4 SNS 小問 4 (非公表) の SNS の理解の反応率

SNS の特性について 記述できた者の割合 (%)	問題形式	能力カテゴリー
26.7	記述式+操作	B1 特性の理解

※ 本問においては「SNSの特性」のほかに「宣伝手段」を記述させる出題であり、ここでは「SNSの特性」について記述できたものを反応率として示した。

#### 【問題例】

図表 4-3-3 情報手段の特性の問題 (小学校) D8S1 掲示板小問 1 通過率 71.9%

問 1 右の画面にあるインターネットの掲示板(けいじばん)では、No. 1 のしつ問に対して、No. 2 から No. 5 の書きこみが答えとしてのっています。  
インターネットの掲示板の良い点として、当てはまるものを下の 1 から 4 までの中から 1 つ選びましょう。

○ 1. たくさんの人と会話することができる。  
○ 2. いつでもすぐに返信がもらえる。  
○ 3. 正しいようほうが手に入る。  
○ 4. 何を書いても、ほかの人のめいわくにはならない。



#### 【正答】

小学校 D8S1 : 選択肢 1 と解答しているもの

## ②情報技術の特性

掃除機の自動制御のアルゴリズムを示したフローチャートを作成することができた中学生は約2割であった。

### 【該当問題】

- ・ 中学校 D7S2 自動制御小問2（非公表）：通過率 19.1%
- ・ 中学校 D7S3 自動制御小問3（公表）：通過率 17.9%

図表 4-3-4 D7S3 自動制御小問3の各項目の反応率

正答 (%)	誤答 (%)		無解答 (%)
	分岐できた	分岐できなかった	
17.9	14.1	66.4	1.6

※ 誤答内の「分岐できた」という項目は、問題例内の②及び③の枠に、2種類ある分岐用のカードを順序問わず入れることができた割合。

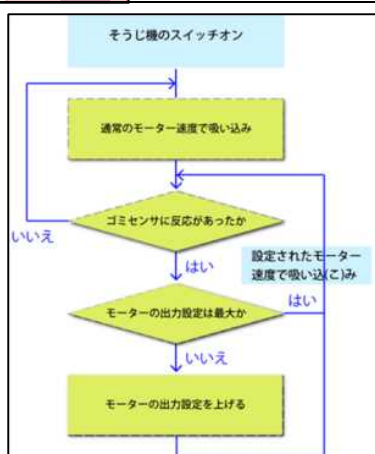
### 【問題例】

図表 4-3-5 自動制御のフローチャートの問題(中学校)D7S3 自動制御小問3 通過率 17.9%

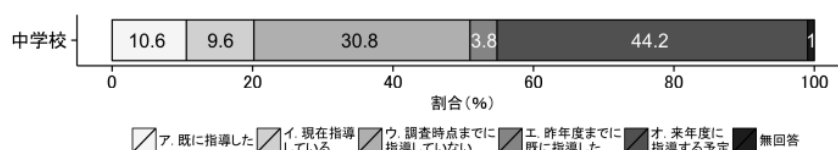
問3 あなたは、部屋のそうじをするために、そうじ機のスイッチをオンにしました。  
 そうじ機の中のセンサとコンピュータは、ごみの状況(じょうきょう)を把握(はあく)して、出力を調整しています。そうじ機はどのような作業をしているのでしょうか。作業の流れに合うように、カードをドラッグして入れましょう。

### 【正答例】

中学校 D7S3 :



図表 4-3-6 中学校（技術分野）のプログラミングの履修状況（学習進度確認項目）





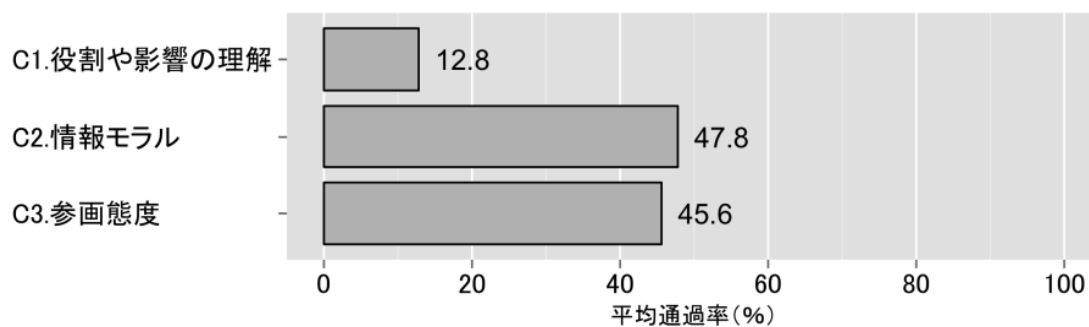
## 4-4 C 観点「情報社会に参画する態度」

### 4-4-1 「C. 情報社会に参画する態度」小学校・中学校の状況

小学校の「C. 情報社会に参画する態度」の各能力カテゴリーの平均通過率は「役割や影響の理解」は12.8%、「情報モラル」は47.8%、「参画態度」は45.6%であった。

中学校の「C. 情報社会に参画する態度」の各能力カテゴリーの平均通過率は「役割や影響の理解」は37.9%、「情報モラル」は40.0%、「参画態度」は59.9%であった。

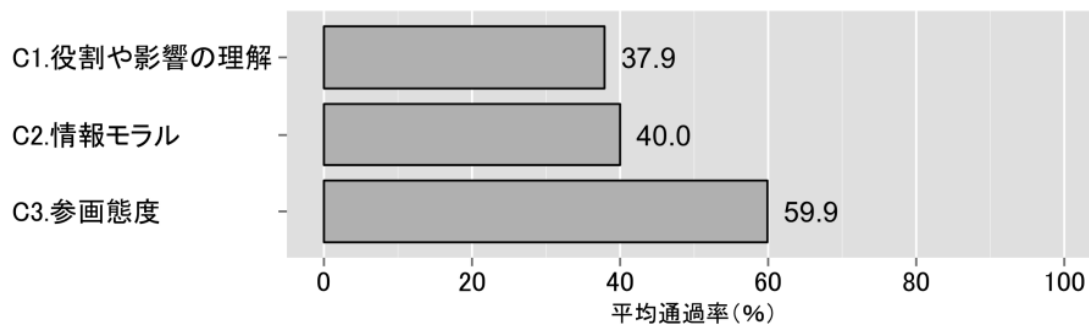
図表 4-4-1a 小学校における「C. 情報社会に参画する態度」の平均通過率



該当小問数 C1 : 1 問, C2 : 2 問, C3 : 2 問

※ 上記グラフは、カテゴリーごとの平均通過率の割合を示したグラフである。

図表 4-4-1b 中学校における「C. 情報社会に参画する態度」の平均通過率



該当小問数 C1 : 3 問, C2 : 2 問, C3 : 1 問

※ 上記グラフは、カテゴリーごとの平均通過率の割合を示したグラフである。

## 4-4-2 問題調査例

### ①情報発信の際の留意点：小学生

情報の取扱いについて心配な点を選択する問題で、「自分の個人情報の保護」を選択した小学生は約7割、「見知らぬ人からの個人情報請求」を選択したのは約5割、「他人の情報（写真）の取扱い」を選択したのは約4割であった。

#### 【該当問題】

- ・小学校 D7S2 ブログ小問2（公表）：通過率 12.8%

図表 4-4-2 各項目の反応率

情報の取扱いについて問題のある点	反応率(%)
個人情報（学校名、学級名及び出席番号）の取扱い	73.0
他人の写った写真の取扱い	41.2
住所を教えて欲しいという見知らぬ他人からの書き込みについて	47.6

※ 上記表は、適切な項目を全て選択する問題のうち、適切な項目の各反応率を示したものの。

#### 【問題例】

図表 4-4-3 自他の情報の取扱いの問題（小学校）D7S2 ブログ小問2 通過率 12.8%

- 問2 みかさんは早速ブログを作りました。  
みかさんのブログの中で、心配に感じる記事を下の1から6までの中から全て選びましょう。
1. ブログのタイトル「MIKANの毎日ステキ日記」
2. 最近の記事「11月1日」
3. 最近の記事「11月2日」
4. 最近の記事「11月5日」
5. MIKANのプロフィール
6. 特に心配な部分はない



#### 【正答】

小学校 D7S2：選択肢3・4・5を選択しているもの

②情報発信の際の留意点：小学生

友達にブログを続けるかやめるかをアドバイスする問題で、「続けるようすすめる」を選択した小学生は約2割、このうち人とのつながりや情報発信に関するメリットの観点で理由を記述したのは約5割であった。また、「やめるようすすめる」を選択したのは約8割、このうち人とのつながりや情報発信に関するリスクの観点で理由を記述したのは約4割であった。

【該当問題】

- ・小学校 D7S4 ブログ小問4（公表）：通過率 39.8%

図表 4-4-4 各項目の反応率

ブログの継続について	反応率(%)	適切な理由を記載できた割合(%)
続ける	20.8	45.6
やめる	75.1	40.3

※ 上記表の、「適切な理由を記載できた割合」は、それぞれ「続ける」を選択した児童のうち適切な理由を記載できた割合、「やめる」を選択した児童のうち適切な理由を記載できた割合。

【問題例】

図表 4-4-5 情報に対する責任の問題（小学校）D7S4 ブログ小問4 通過率 39.8%

問4 右の画面のように、知らない人からのコメントがあり、みかさんは、少しいやな気持ちになりました。

みかさんはこれからもブログを続けるかなやんでいます。

あなたは、みかさんにどのようなアドバイスをしますか。下の「ブログを続けるようすすめる」「ブログをやめるようにすすめる」の中から1つ選びましょう。

また、その理由を下のかいとうらんに書きましょう。

1. 「ブログを続けるようすすめる」  
 2. 「ブログをやめるようにすすめる」



【正答例】

小学校 D7S4 :

[選択] 1. 「ブログを続けるようすすめる」

[理由] 友達とつながれることはよいから

③情報の受け手としての行動：中学生

不正請求のメールを受け取った際の対応として不適切なものを抽出できた中学生は2割であった。そのうち「メールに返信する」を選択したのは約5割、「入金後 URL から退会手続きをする」を選んだのは約4割、「問い合わせ先に電話をして抗議する」を選んだのは約4割であった。

【該当問題】

- ・ 中学校 D8S3 不正請求小問3（公表）：通過率 21.2%

図表 4-4-6 D8S3 不正請求小問3の各項目の反応率

不適切な項目	反応率(%)
メールに返信する	50.4
入金後 URL から退会手続きをする	43.9
問い合わせ先に電話して抗議する	38.5

【問題例】

図表 4-4-7 情報に対する責任の問題（中学校）D8S3 不正請求小問3 通過率 21.2%

<p>問3 幸子さんは、「満足度 No.1 絵文字ダウンロード」に登録し、絵文字をダウンロードしました。</p> <p>数か月後、右のようなメールが届きました。</p> <p>幸子さんが取るべき行動として、不適切なものはどれですか。メールを下まで見て、下の1から5までの中から全て選びましょう。</p> <p><input type="checkbox"/> 1 このメールに返信する。</p> <p><input type="checkbox"/> 2 保護者に相談をする。</p> <p><input type="checkbox"/> 3 問い合わせ先に電話して、抗議（こうぎ）する。</p> <p><input type="checkbox"/> 4 入金後、URL から退会手続きをする。</p> <p><input type="checkbox"/> 5 消費生活センターに問合せをする。</p>	<table border="1"> <tr> <td>日時</td> <td>2/18 20:18</td> </tr> <tr> <td>送信者</td> <td>xxxxxxxx.xxx@xxxxxx</td> </tr> <tr> <td>件名</td> <td>絵文字会員費用について</td> </tr> </table> <p>当サイトの利用料金が未納となっております。（ダウンロードは無料となっておりますが、会員費用はかかります。）</p> <p>1週間以内に利用料金 28,000 円を以下の振込（ふりこみ）先に入金してください。</p> <p><b>** 銀行 ** 支店</b> XXXXXXXXXX ご利用の携帯電話の個人識別番号は 0a1b2c3 です。□入金が無い場合は、法的処置に移行します。</p> <p>入金後、下記 URL から退会することができます。 <a href="http://www.xxxxxxxxxx/xxxxxxxx/">http://www.xxxxxxxxxx/xxxxxxxx/</a></p> <p>問合せ先 03-XXXX-XXXX</p>	日時	2/18 20:18	送信者	xxxxxxxx.xxx@xxxxxx	件名	絵文字会員費用について
日時	2/18 20:18						
送信者	xxxxxxxx.xxx@xxxxxx						
件名	絵文字会員費用について						

【正答】

中学校 D8S3：選択肢 1・3・4 を選択しているもの

## 4-5 文字入力

### 4-5-1 文字入力の傾向

キーボードの基本的な操作について、濁音・半濁音、促音の組合せや、アルファベット、カタカナなどの入力切り替えに課題。

児童生徒全体の入力文字数の中央値（小学校：19, 中学校②：44）と、学校ごとに平均した入力文字数の値とがもっとも近い学校を、小学校（平均値 19）と中学校（文章②：平均値 44）からそれぞれ一校抽出し、文字入力ログや調査実施時の観察などをもとに分析した。なお、中学校は文章②を問題調査としたものを対象とした。

図表 4-5-1a 小学校における文字入力のつまずきの傾向

まったく文字入力できない児童は 43%（対象 32 人中 14 人）であった。
濁音・半濁音と促音の組み合わせからなる単語の入力に時間を要している傾向が強い。特に、この組み合わせを含む漢字やカタカナの単語の入力は、正しく入力できる児童が極めて少ない。多くの児童が、これら入力部分で入力がストップしている。
「, 」の入力できない児童がみられる。
ひらがな、カタカナの切り替えが出来ない傾向がある。

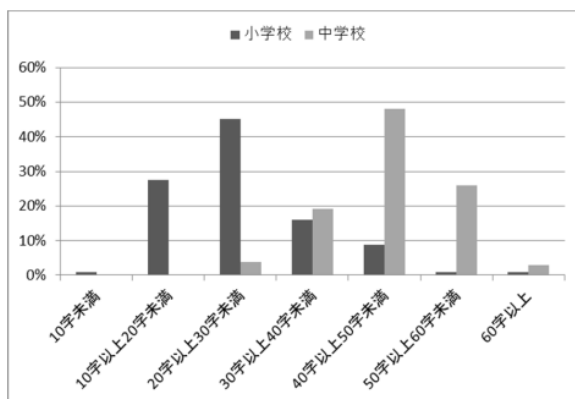
図表 4-5-1b 中学校における文字入力のつまずきの傾向

まったく文字入力できない生徒は 3%（対象 30 人中 1 人）と少ない。
濁音・半濁音と促音の組み合わせからなる単語の入力につまずく生徒が存在するように推察される。しかし、漢字の入力では、音読みや訓読みを組み合わせることで自身が理解できる漢字の組み合わせで入力を行っている生徒が確認できる。よって、時間はかかるがそこで入力が止まってしまうことは少ない。
「, 」やスペースでつまずく生徒が、数名いる。
ひらがな、アルファベットの入力（切り替え）につまずき、時間を要している傾向がみられる。
漢字変換に関しては、文字を単語単位で変換している生徒と、文章をまとめて変換する生徒がみられた。文字入力に多くの時間を要する生徒は、文章をまとめて変換しようとする傾向がある。

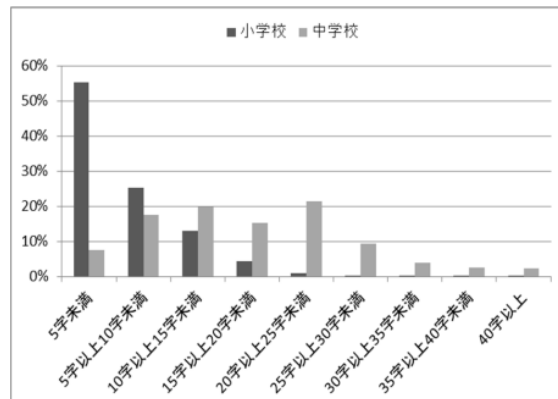
## 4-5-2 文字入力数

平均入力文字数別の学校割合は、小学校は 20 字以上 30 字未満が最大で 45.1%，中学校は 40 字以上 50 字未満が最大で 48.1%である。

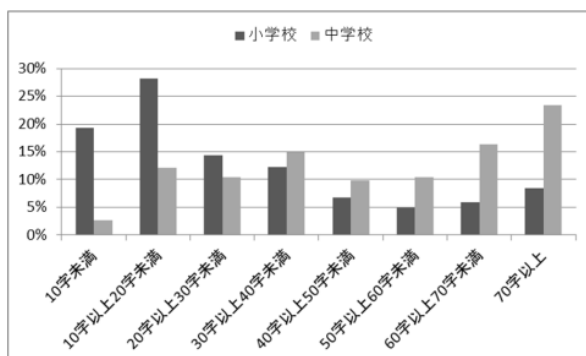
図表 4-5-2a 平均入力文字数別の学校割合



図表 4-5-2b 1 分間当たりの文字入力数  
小：平均 5.9 文字 中：平均 17.4 文字



図表 4-5-2c 入力文字数別の割合



図表 4-5-3 実際の出題問題（小学校及び中学校文章①）

【解答時間：小学校 5 分，中学校 3 分】（全角換算 72 文字）

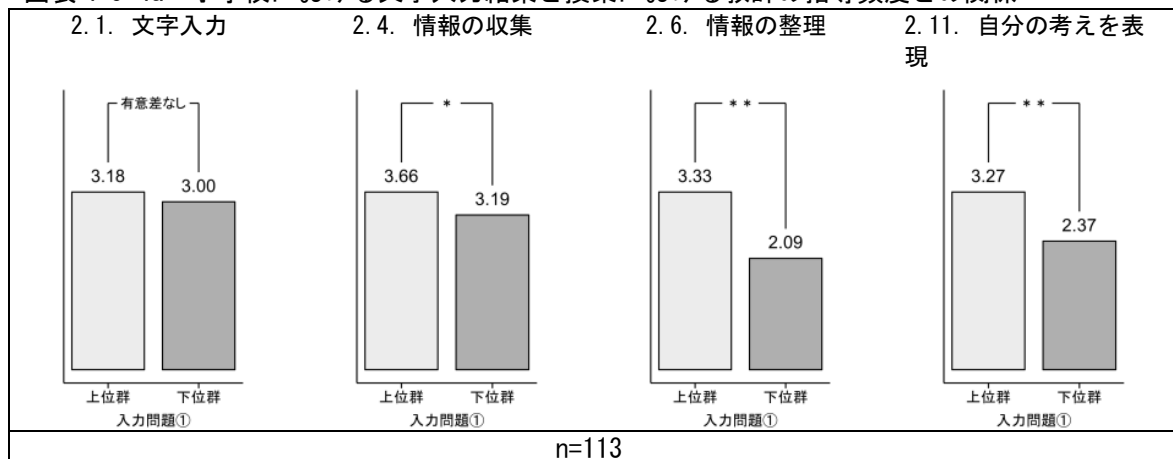
わたしたち3はんは、自動車工場へ見学に行きました。働く人にインタビューをし、デジタルカメラを使って、写真をとりました。写真は CD-R に保存しました。

### 4-5-3 文字入力数の多い学校の傾向

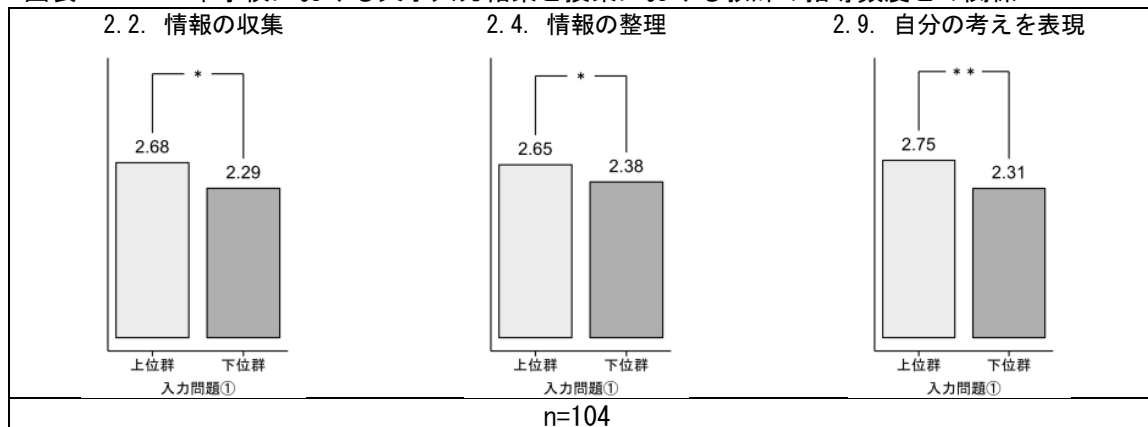
#### ①教師用質問紙との関係

小・中学校ともに、「文字入力数」の上位の学校群の教員の方が下位の学校群の教員より、児童生徒がICTを用いて情報を収集したり、発信したりする学習活動を多く取り入れている傾向がある。

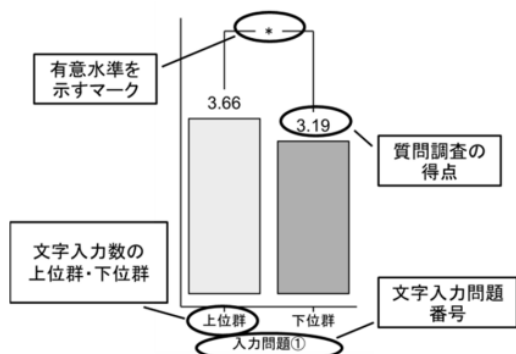
図表 4-5-4a 小学校における文字入力結果と授業における教師の指導頻度との関係



図表 4-5-4b 中学校における文字入力結果と授業における教師の指導頻度との関係



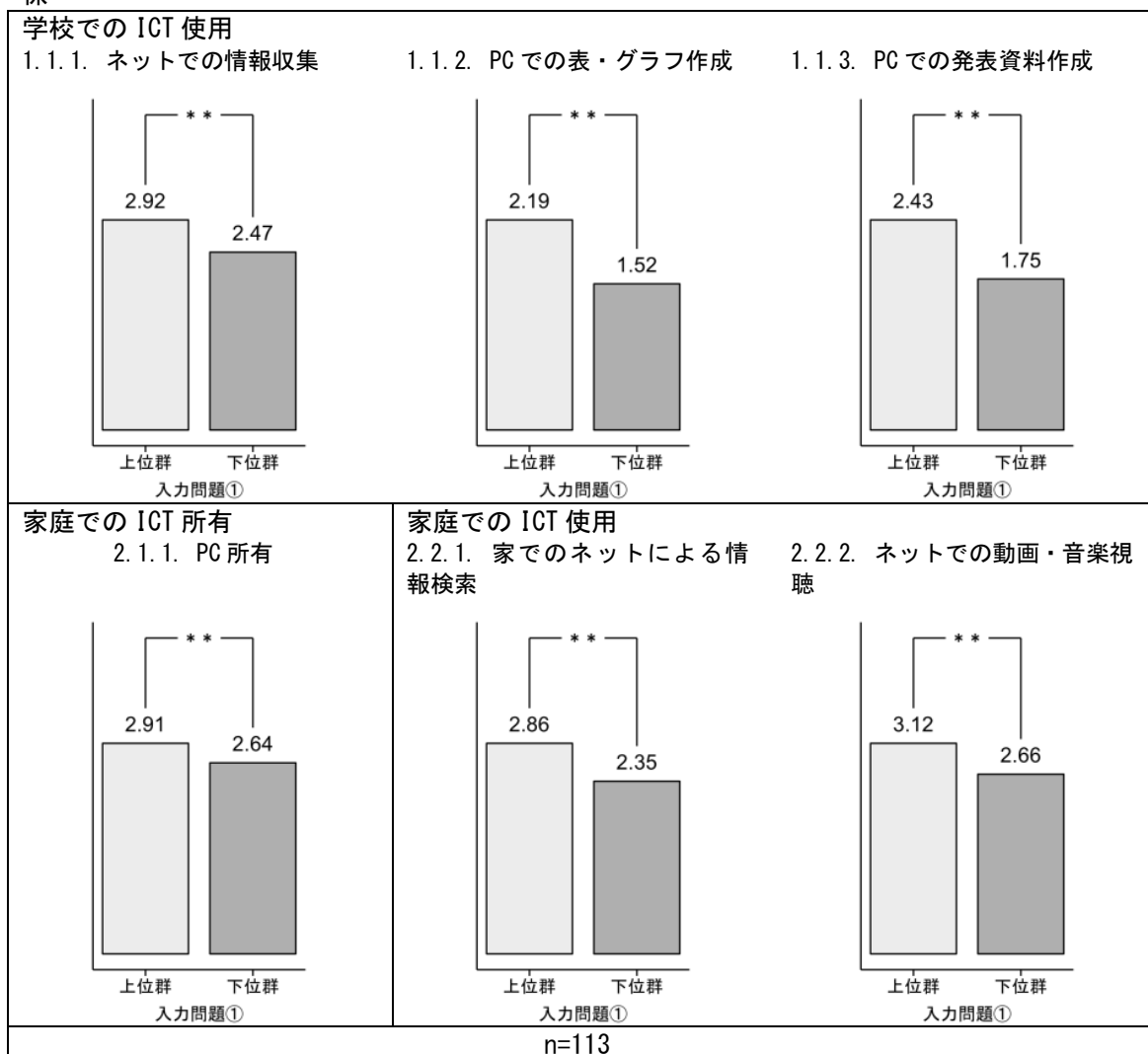
- ※ グラフ内の「\*\*」マークは有意水準1%未満、「\*」マークは有意水準5%未満。
- ※ 「文字入力数」の上位の学校群は、児童生徒の学校別の平均入力文字数が多かった上位10%の学校群（上位群）を対象とした。また、平均文字入力数が少なかった下位10%を下位群とした。
- ※ グラフ内の数値は、教師用質問紙の授業における教師の指導頻度を示すものであり、得点が高い方がより情報活用能力を育成する授業を行っている。
- ※ 下図はグラフの見方を示したもの。



## ②児童生徒用質問との関係

小・中学校ともに、「文字入力数」の上位の学校群の児童生徒の方が下位の学校群の児童生徒より、学校での ICT 使用について、情報収集や発表資料の作成に用いており、家庭では自分のパソコンを所有し、検索に用いたりインターネットを楽しんだりしている回答の割合が高い傾向にある。

図表 4-5-5a 小学校における文字入力結果と学校での ICT 使用，家庭での ICT 所有・使用の関係

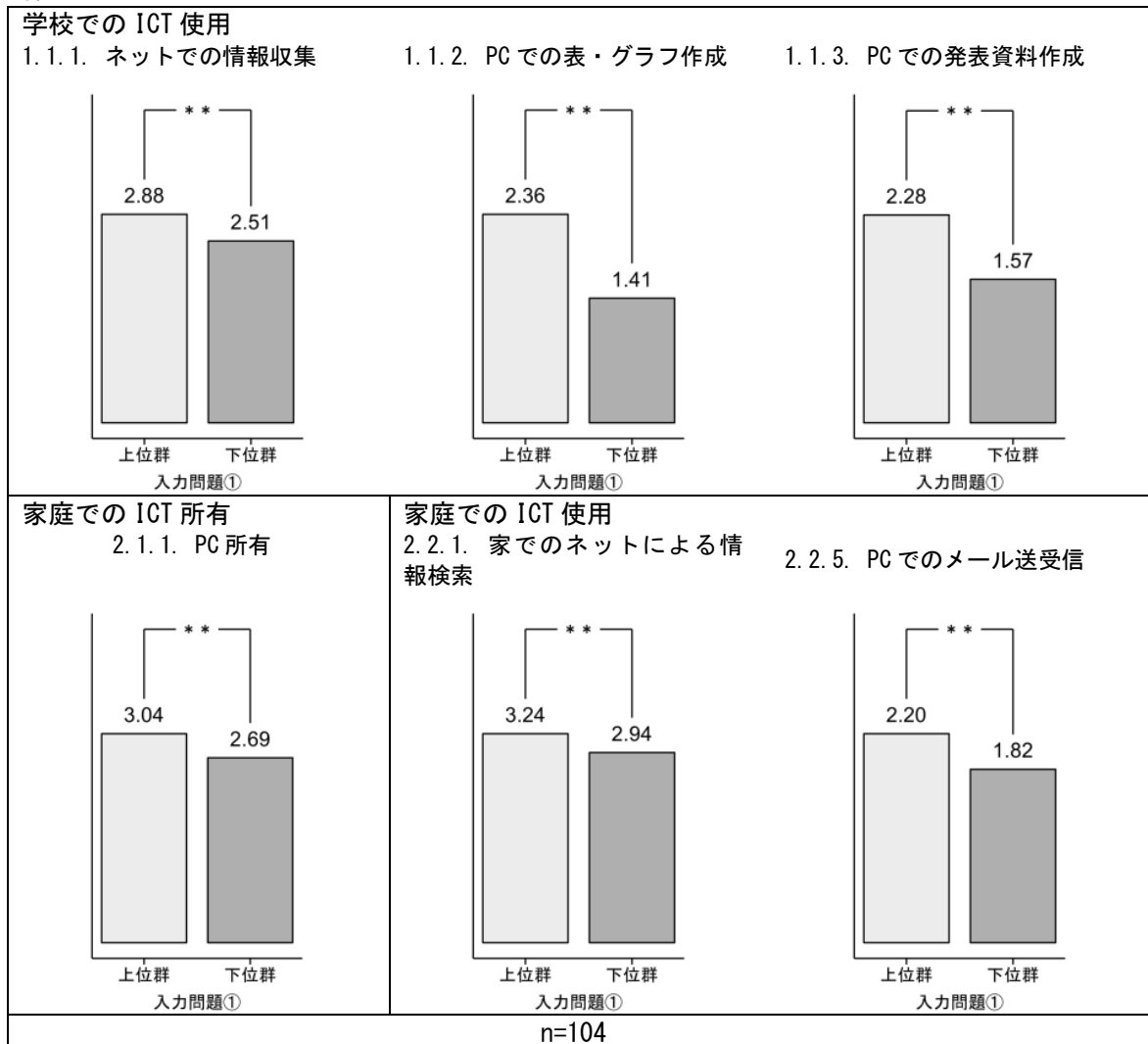


※ グラフ内の「\*\*」マークは有意水準 1%未満、「\*」マークは有意水準 5%未満。

※ 「文字入力数」の上位の学校群は、児童生徒の学校別の平均入力文字数が多かった上位 10%の学校群（上位群）を対象とした。また、平均文字入力数が少なかった下位 10%を下位群とした。



図表 4-5-5b 中学校における文字入力結果と学校での ICT 使用, 家庭での ICT 所有・使用の関係



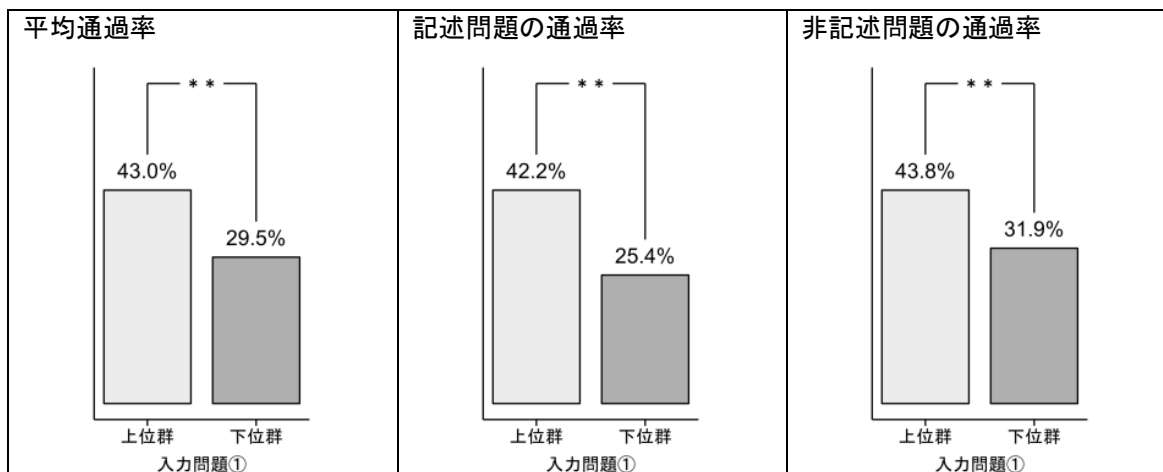
※ グラフ内の「\*\*」マークは有意水準 1%未満, 「\*」マークは有意水準 5%未満。

※ 「文字入力数」の上位の学校群は, 児童生徒の学校別の平均入力文字数が多かった上位 10%の学校群(上位群)を対象とした。また, 平均文字入力数が少なかった下位 10%を下位群とした。

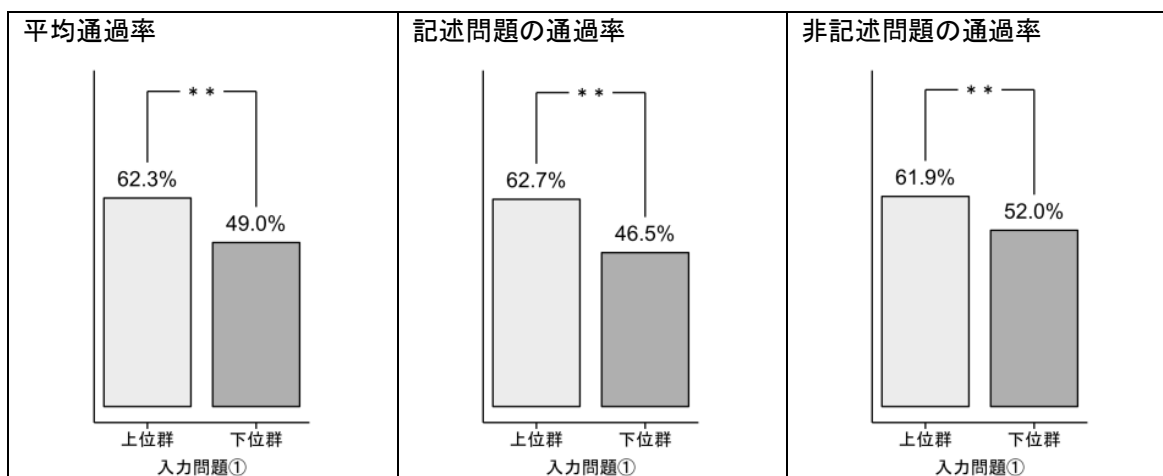
### ③情報活用能力との関係

小・中学校ともに、「文字入力数」の上位の学校群の児童生徒の方が下位の学校群の児童生徒より、情報活用能力調査の通過率が高い。

図表 4-5-6a 小学校における文字入力結果と問題調査の通過率の関係



図表 4-5-6b 中学校における文字入力結果と問題調査の通過率の関係



※ グラフ内の「\*\*」マークは有意水準 1%未満、「\*」マークは有意水準 5%未満。

※ 「文字入力数」の上位の学校群は、児童生徒の学校別の平均入力文字数が多かった上位 10%の学校群（上位群）を対象とした。また、平均文字入力数が少なかった下位 10%を下位群とした。

## 4-6 質問(紙)調査の結果概要(単純集計)

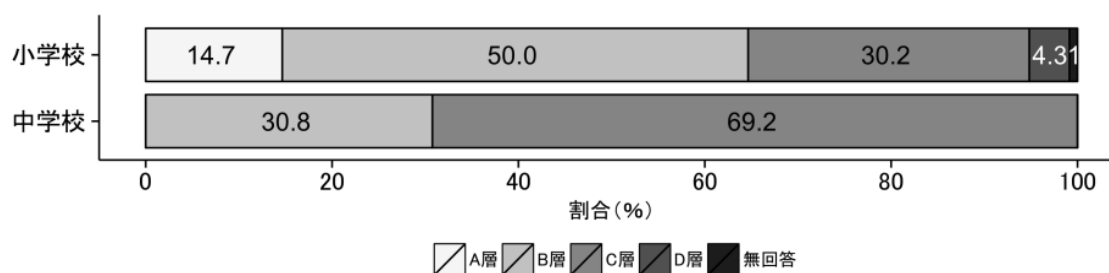
### 4-6-1 教師用質問紙の状況

- 対象：小学校：調査実施学級の担任，中学校：調査対象学級の担任（道徳，特別活動），各教科及び総合的な学習の時間の授業を担当している教員の計12名
- 項目数：小学校61項目，中学校57項目
- 分析方法：カテゴリーによる分析（カテゴリー内の各項目結果記載）

教員の「情報活用能力を育成する指導力」に関して，指導できると肯定的な回答をしている教員は小学校で6割，中学校では，教科によって違いがあるものの概ね3割を超えている。

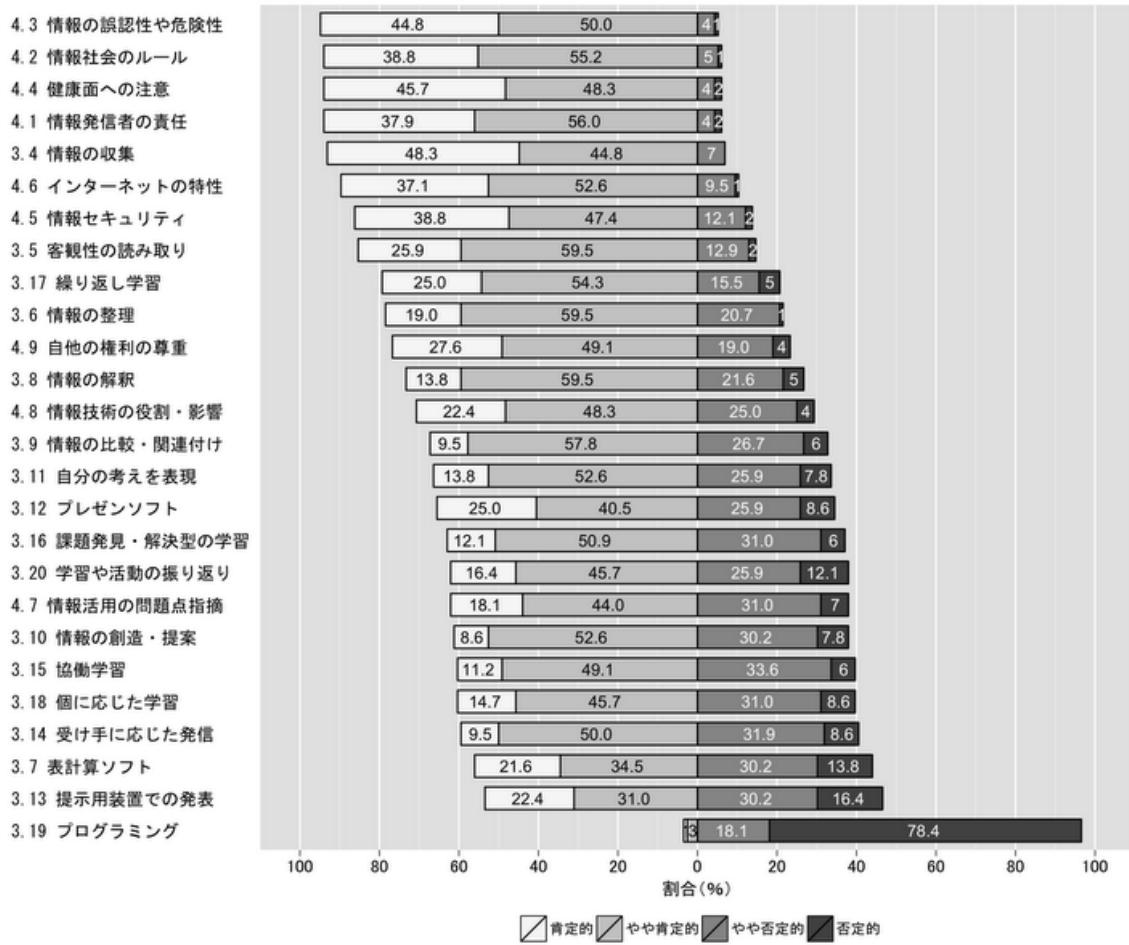
一方，「情報活用能力を育成する授業の実施状況」に関して，実施頻度が高い教員は，小・中学校ともに1割に満たない。

図表 4-6-1 教員の「情報活用能力を育成する指導力」(教師用質問紙)

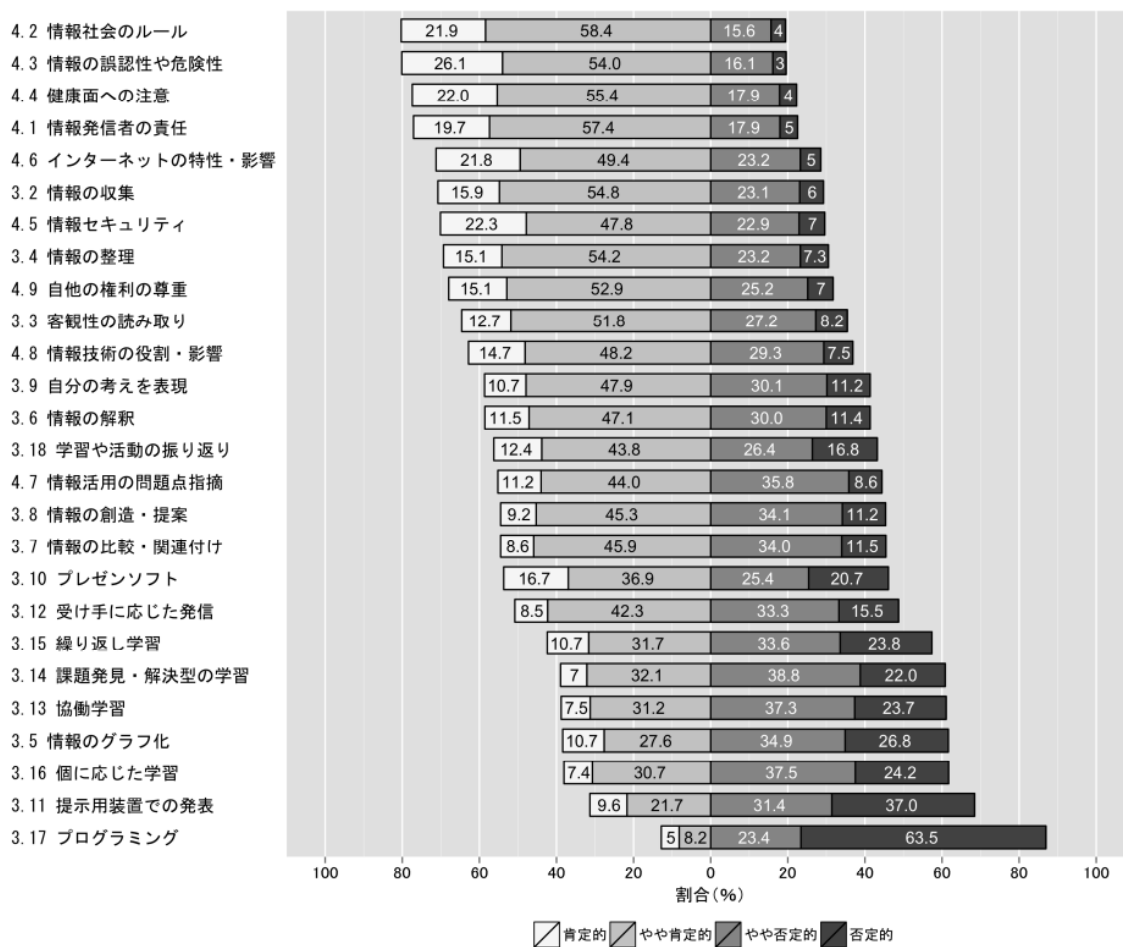


※ 中学校は12教科平均の値で算出している。

図表 4-6-2a 教員の「情報活用能力を育成する指導力」に関する質問項目（小学校）

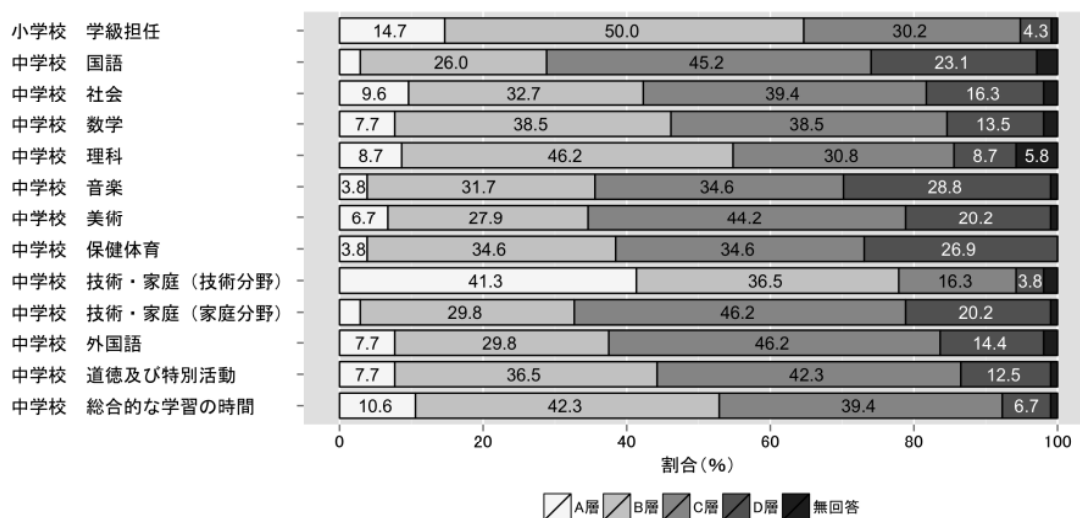


図表 4-6-2b 教師の「情報活用能力を育成する指導力」に関する質問項目（中学校）

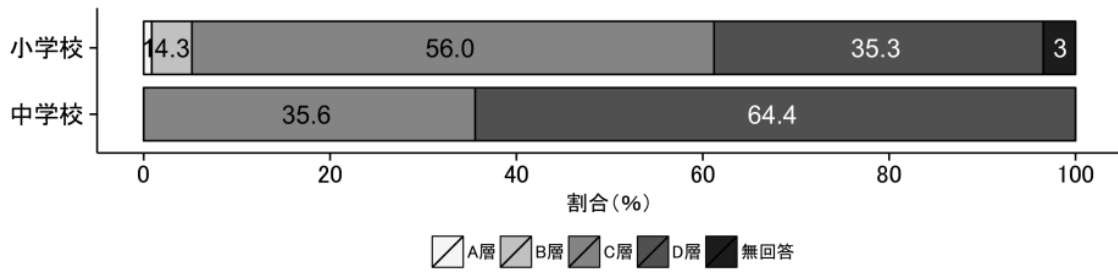


※ 中学校は12教科合計（104校×12種類）の値で算出している。

図表 4-6-3 「情報活用能力を育成する指導力」情報活用能力の育成にかかわる指導ができるかどうかについての自己評価

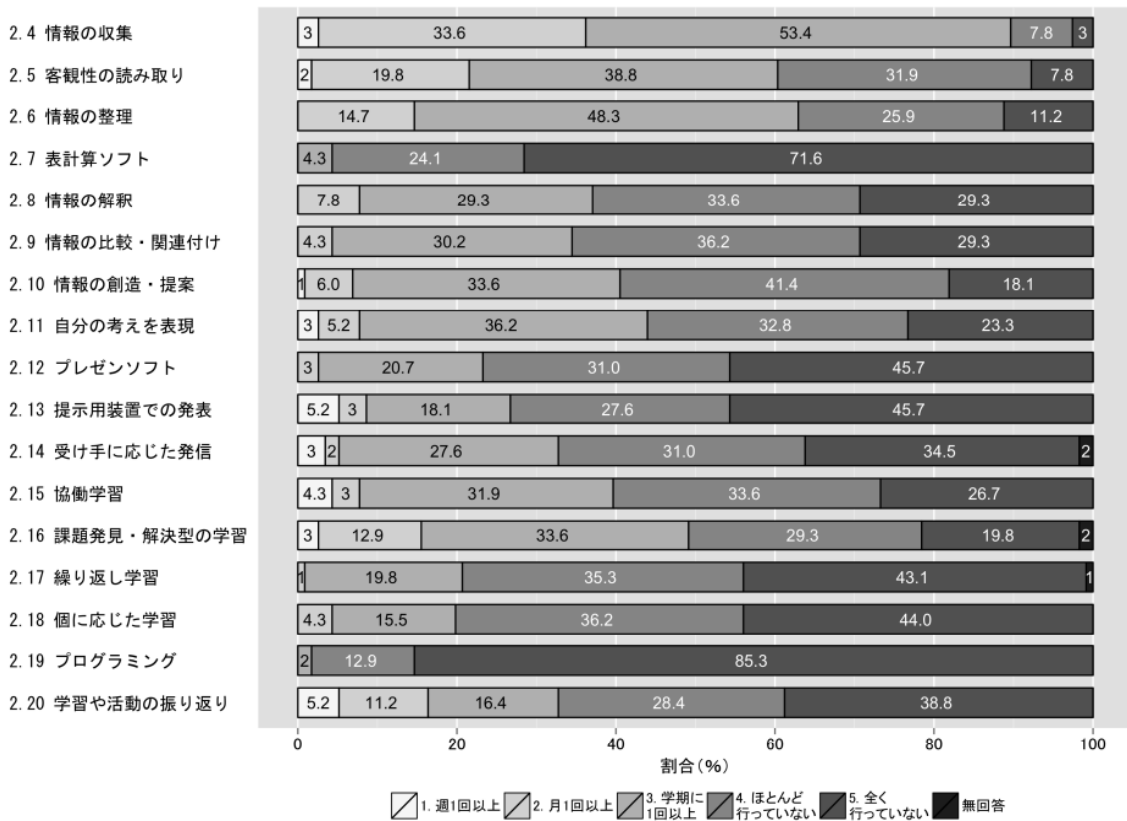


図表 4-6-4 教員の「情報活用能力を育成する授業の実施状況」(教師用質問紙)

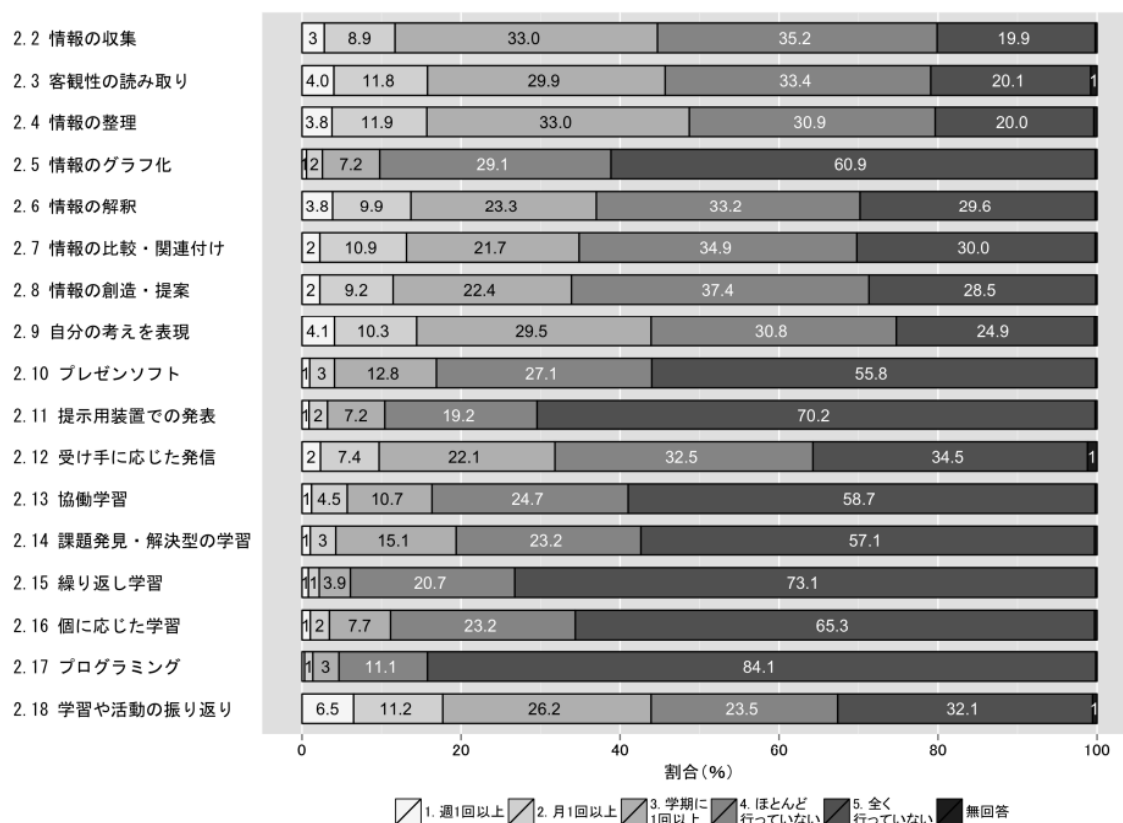


※ 中学校は12教科平均の値で算出している。

図表 4-6-5a 教員の「情報活用能力を育成する授業の実施状況」に関する質問項目(小学校)

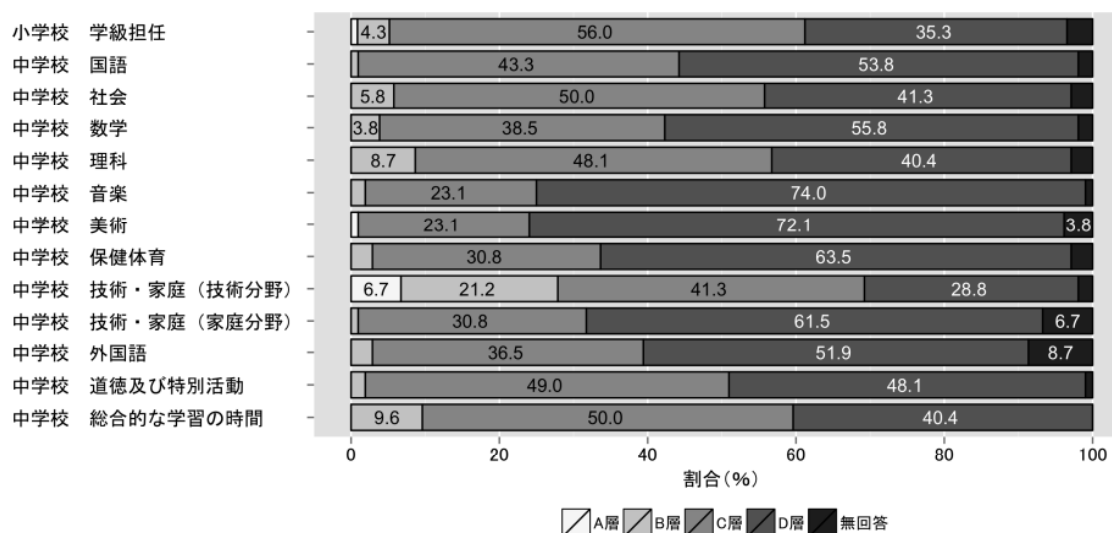


図表 4-6-5b 教員の「情報活用能力を育成する授業の実施状況」に関する質問項目（中学校）



※ 中学校は12教科合計（104校×12種類）の値で算出している。

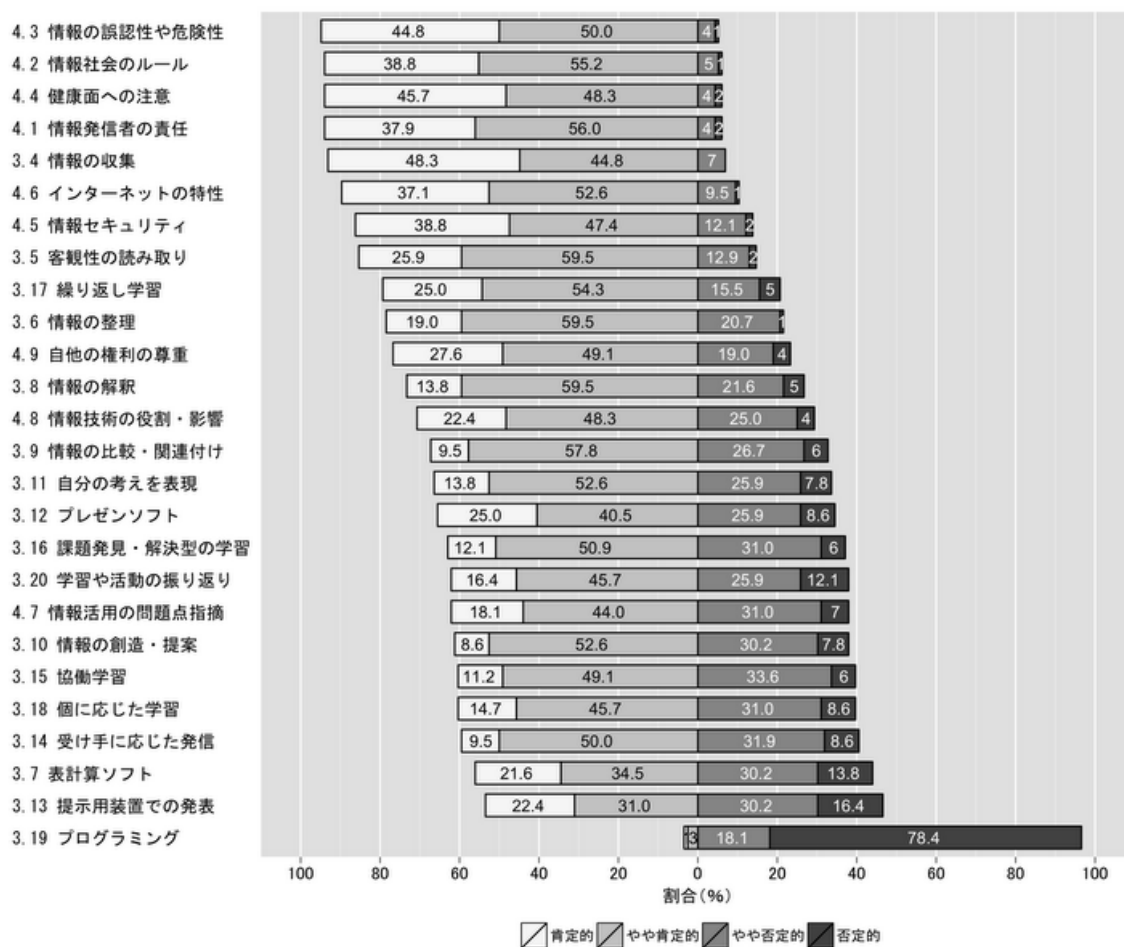
図表 4-6-6 「情報活用能力を育成する授業の実施状況」情報活用能力の育成にかかわる授業の実施状況



①小項目別の傾向（プログラミング）

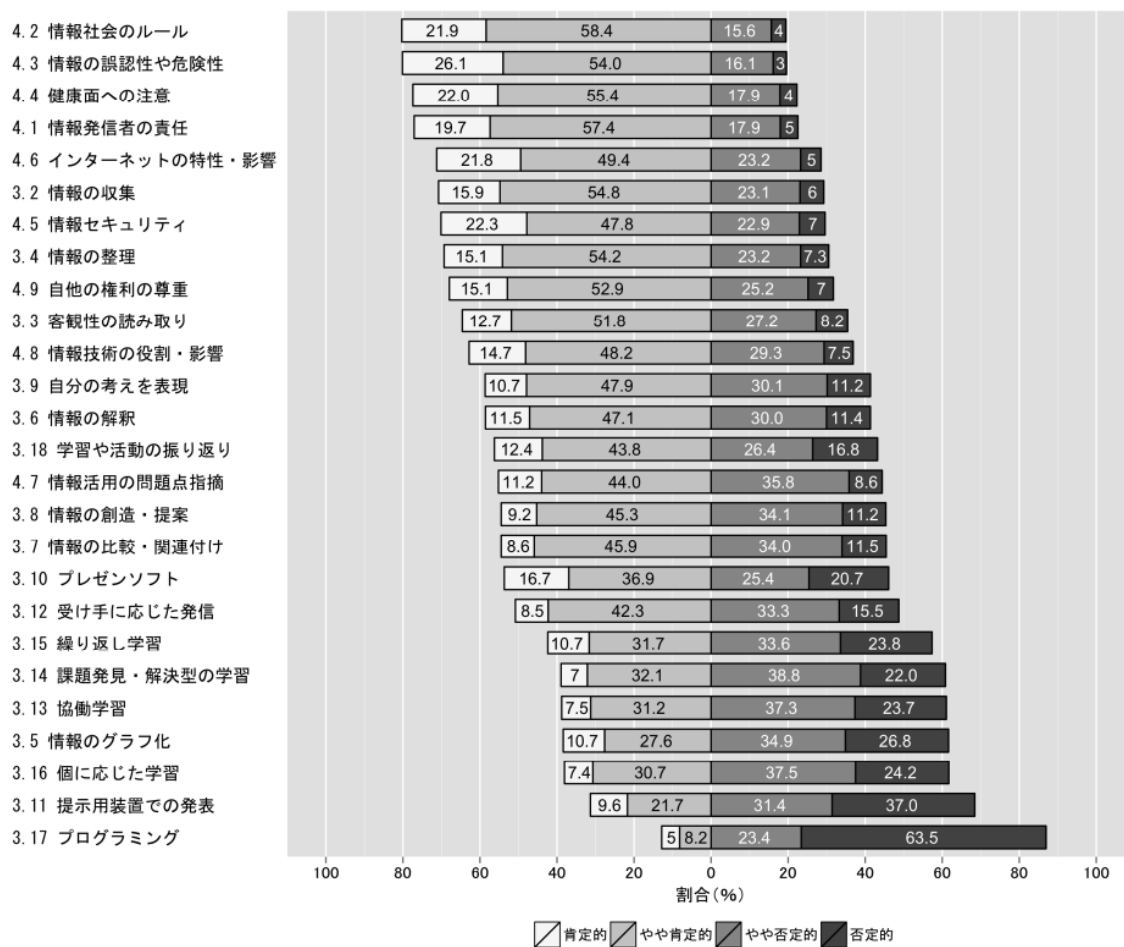
ゲームを作ったりロボットを動かしたりするプログラミングにかかわる指導ができると肯定的な回答をしている教員は、小学校で1割未満、中学校技術・家庭科(技術分野)の担当教員では、約7割である。

図表 4-6-7a 教員の「情報活用能力指導力」・「理解および態度」に関する質問項目（小学校）



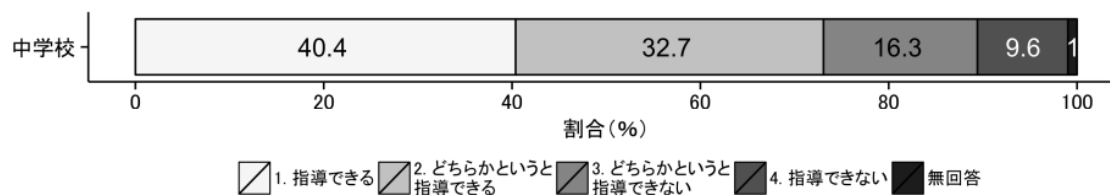


図表 4-6-7b 教員の「情報活用能力指導力」・「理解および態度」に関する質問項目（中学校）



※ 中学校は12教科合計（104校×12種類）の値で算出している。

図表 4-6-8 技術・家庭科（技術分野）担当教員のプログラミングの指導の可否（中学校）

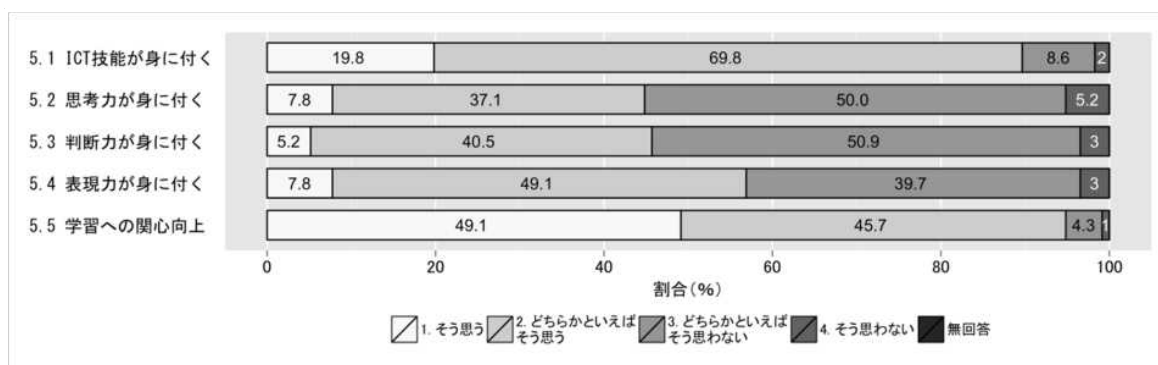


## ②小項目別の傾向（ICT 活用の効果）

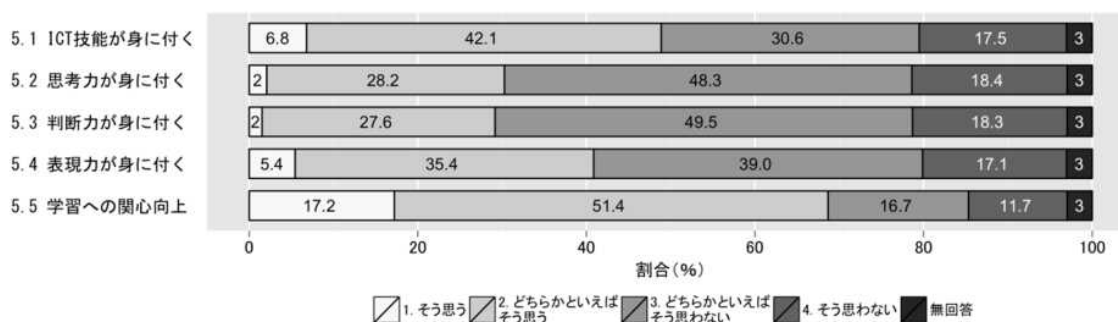
授業での教員による ICT 活用によって、児童生徒の学習への興味・関心が高まったと評価している教員は、小学校で9割以上、中学校で約7割である。

一方、児童生徒の思考力、判断力や表現力が身に付いたと評価している教員は、小学校で5～6割、中学校で3～4割である。

図表 4-6-9a ICT 活用の効果に関する質問項目（小学校）



図表 4-6-9b ICT 活用の効果に関する質問項目（中学校）



※ 中学校は12教科合計（104校×12種類）の値で算出している。

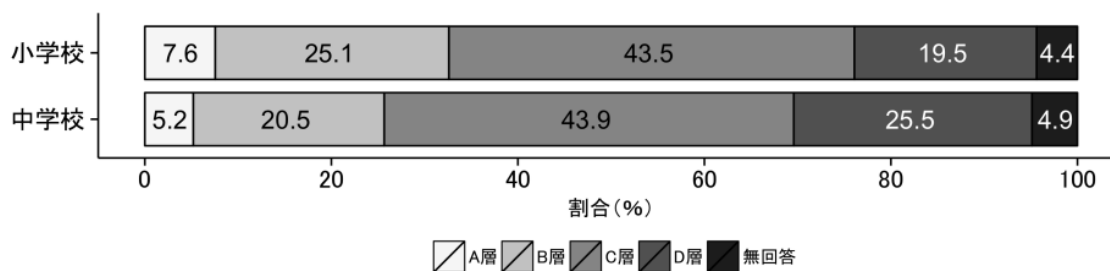
## 4-6-2 児童生徒用質問の状況

- 対象：小学校：調査対象学級の児童（有効数：3337），中学校：調査対象学級の生徒（有効数：3327）
- 項目数：小・中学校 39 項目
- 分析方法：カテゴリによる分析（カテゴリ内の各項目結果記載）

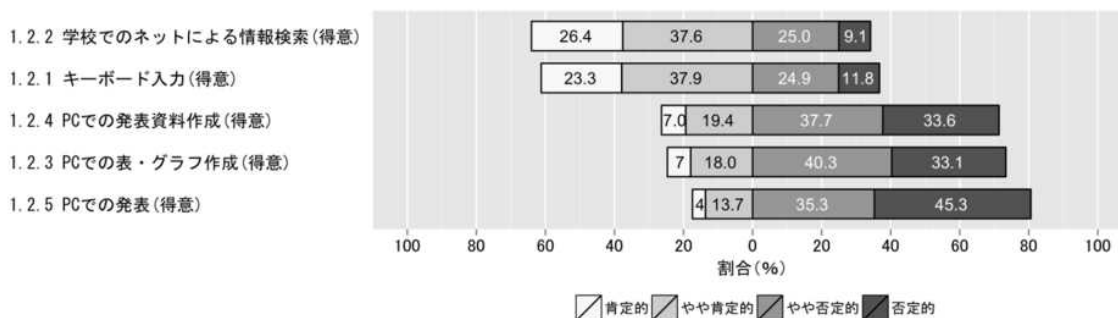
### ①カテゴリ別の傾向（ICT 活用能力の自己評価）

「ICT 活用能力の自己評価」に関して、ICT 機器の操作等が得意であるという肯定的な回答をしている児童生徒は、小・中学校ともに約3割である。

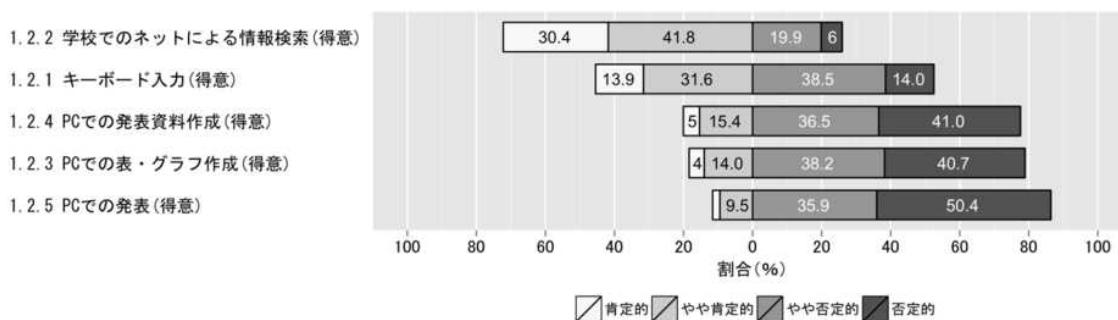
図表 4-6-10 児童生徒の「ICT 活用能力の自己評価」（児童生徒用質問）



図表 4-6-11 児童の「ICT 活用能力自己評価」に関する質問項目（小学校）（児童生徒用質問）



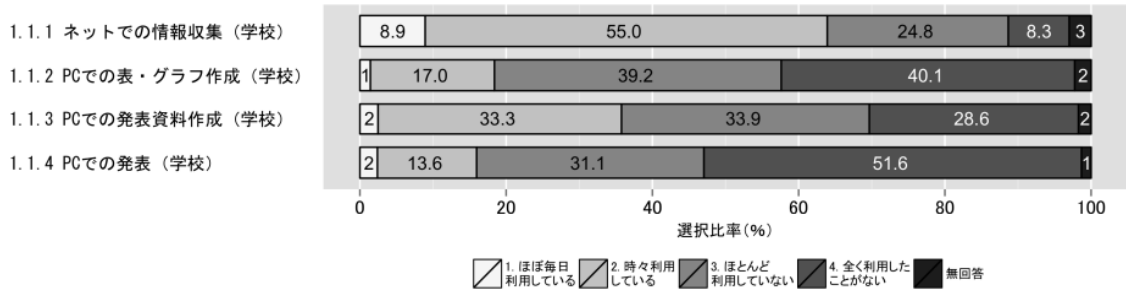
図表 4-6-12 生徒の「ICT 活用能力自己評価」に関する質問項目（中学校）（児童生徒用質問）



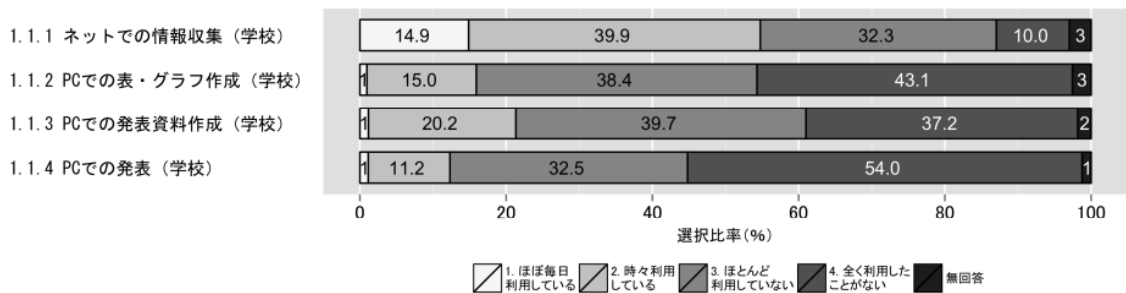
②小項目別の傾向（学校での ICT 使用）

「学校におけるICTの使用状況」に関して、情報収集をしていると肯定的な回答をしている児童生徒は、小・中学校ともに約6割であるが、それ以外の資料作成や発表等での使用については、1～4割程度である。

図表 4-6-13a 児童の学校における ICT 使用状況に関する質問項目（小学校）（児童生徒用質問）



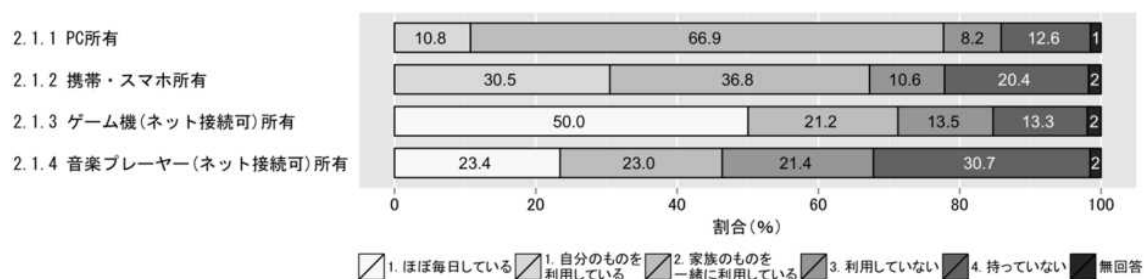
図表 4-6-13b 生徒の学校における ICT 使用状況に関する質問項目（中学校）（児童生徒用質問）



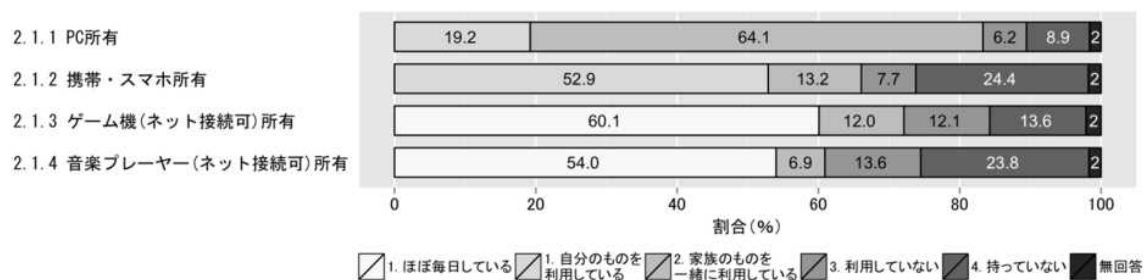
### ③小項目別の傾向（家庭での ICT 所有）

「家庭での ICT 機器の所有状況」に関して、自分の携帯電話やスマートフォンを持っている児童生徒は、小学校は約3割、中学校は約5割である。

図表 4-6-14a 児童の「家庭での ICT 所有」に関する質問項目（小学校）（児童生徒質問）



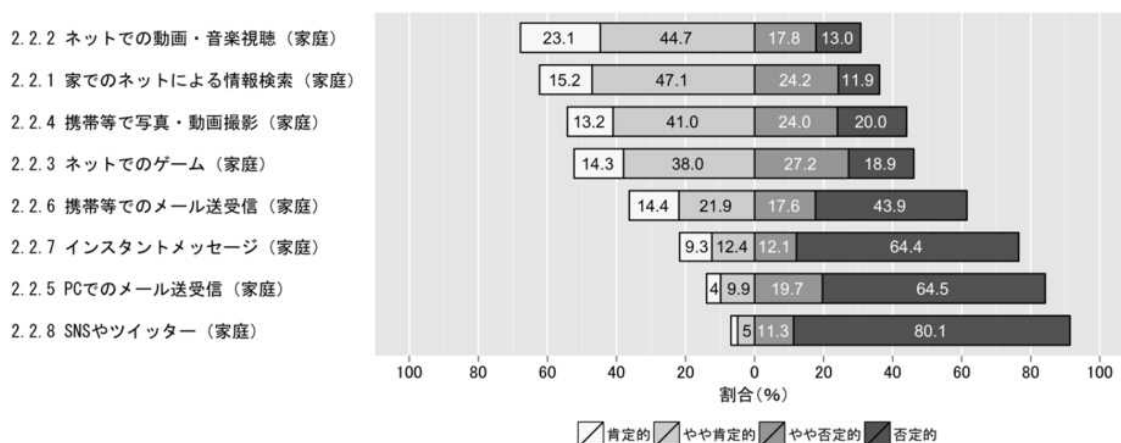
図表 4-6-14b 生徒の「家庭での ICT 所有」に関する質問項目（中学校）（児童生徒質問）



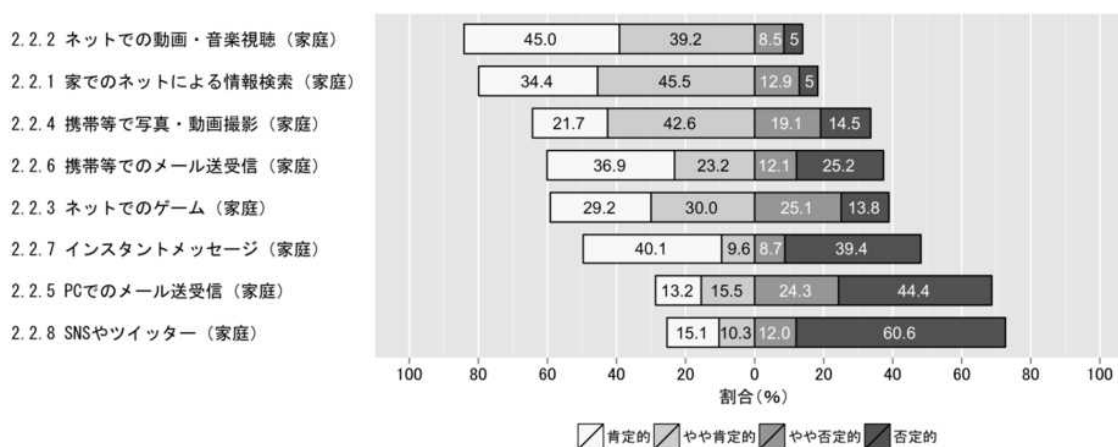
#### ④小項目別の傾向（家庭での ICT 使用）

「家庭での ICT 機器の使用状況」に関して、インスタントメッセージや携帯等でメールを「ほぼ毎日している」児童生徒は、小学校では約1割、中学校では約4割であった。

図表 4-6-15a 児童の「家庭での ICT 使用」に関する質問項目（小学校）（児童生徒質問）



図表 4-6-15b 生徒の「家庭での ICT 使用」に関する質問項目（中学校）（児童生徒質問）

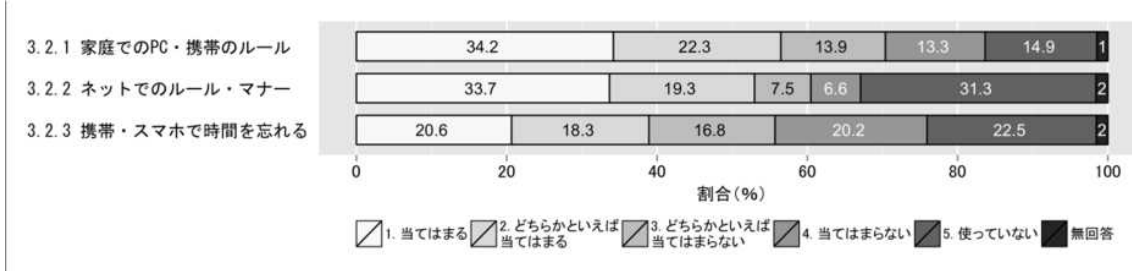


⑤小項目別の傾向（情報モラル）

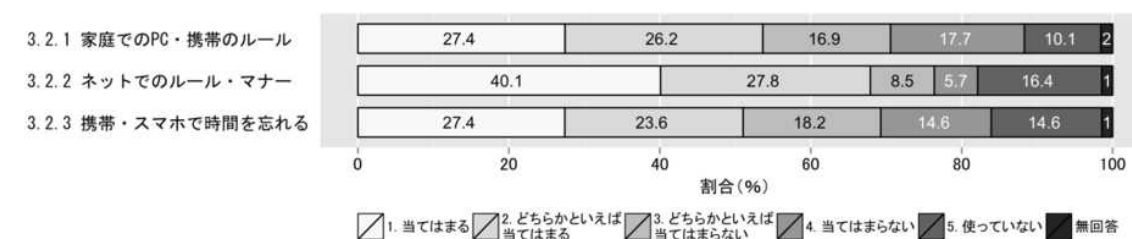
家庭でコンピュータや携帯電話の使用ルールを決めている児童生徒は、小学校で約6割、中学校で約5割であった。

インターネットでのルールやマナーに気を付けるようにしている児童生徒は、小学校で約5割、中学生で約7割であった。また、携帯電話やスマートフォンのやりとりが楽しくて時間を忘れることがあるのは、小学校で約4割、中学校で約5割である。

図表 4-6-16a 児童の「情報モラル」に関する質問項目（小学校）（児童生徒用質問）



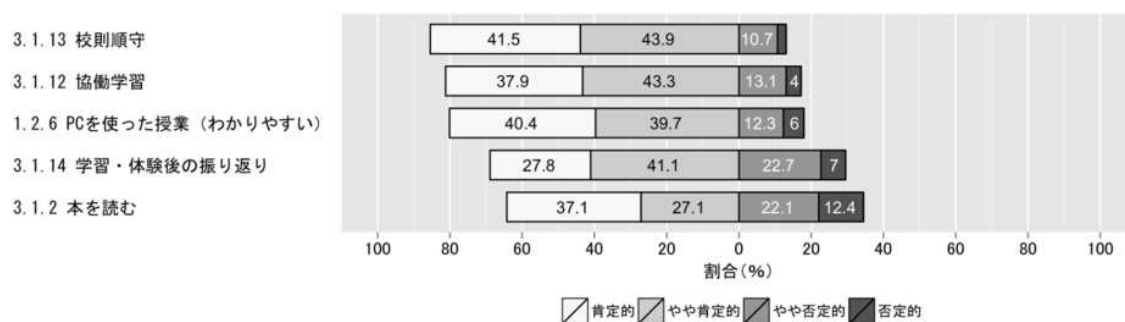
図表 4-6-16b 生徒の「情報モラル」に関する質問項目（中学校）（児童生徒用質問）



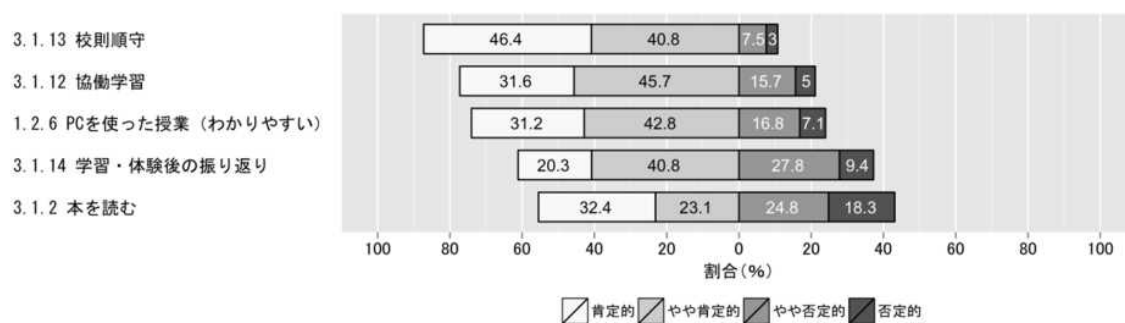
## ⑥小項目別の傾向（その他）

PCを使った授業がわかりやすいと思っている児童生徒は、小学校で約8割、中学校で約7割である。

図表 4-6-17a 児童の「その他」に関する質問項目（小学校）（児童生徒用質問）



図表 4-6-17b 生徒の「その他」に関する質問項目（中学校）（児童生徒用質問）



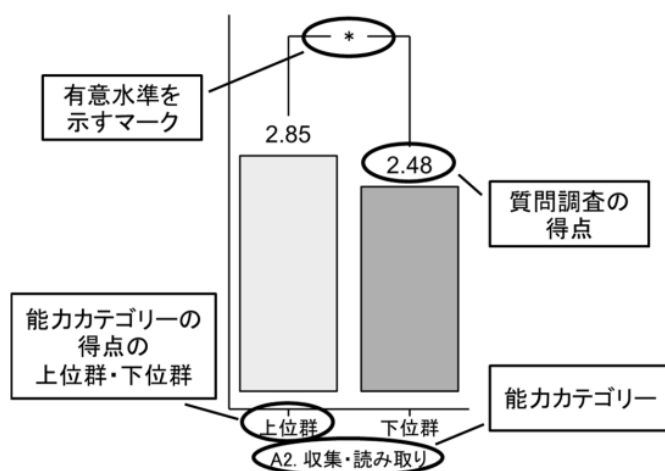


## 4-7 問題調査と質問(紙)調査のクロス分析結果の概要

クロス分析はそれぞれ調査で設定したカテゴリーを用いて ( $\alpha$  値が低いものはカテゴリー一化せず, 単項目として扱い) 相関係数を求め, t 検定を実施し, 差異について統計的な有意差の有無を分析した。相関が見られ有意性があったもののうち主なものを記載する。

なお, 本項に掲載されているグラフの図解を以下に掲載する。

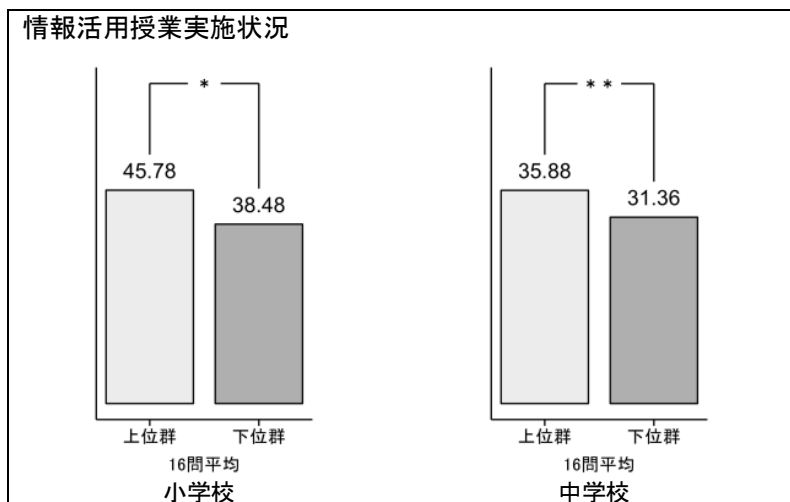
図表 4-7-1 有意差グラフの図解



#### 4-7-1 教師用質問紙からみる上位と下位の学校群の傾向

情報活用能力調査結果の上位の学校群は下位の学校群に比べて、教員の「情報教育授業実施頻度」が高い。

図表 4-7-2 「情報教育授業実施頻度」の有意差



- ※ 上位と下位の学校群とは、問題調査の対象カテゴリーの得点の上位 10%と下位 10%の学校群を指す。
- ※ グラフ内の数値は、得点が高い方が情報教育の授業を実施することにより肯定的な回答であったことを示す。
- ※ グラフ内の「\*\*」マークは有意水準 1%未満、「\*」マークは有意水準 5%未満。

図表 4-7-3 小学校教員の「情報教育授業実施頻度」に関する質問項目

調査項目	上位群	下位群	
収集した情報を分類・要約するなどしながら整理させる	3.44	2.09	**
情報をよりよく解釈するために考えていることを可視化するなど、 <u>自分の考えを表現させる</u>	3.38	2.37	**
情報手段の特性に応じた <u>伝達及び円滑なコミュニケーションを行わせる</u>	3.15	2.28	*
学習や活動について振り返りながら新たな課題や改善点に気づかせる	3.30	2.09	**

- ※ 数値は、質問項目（5点満点）の数値。
- ※ 図表内の「\*\*」マークは有意水準 1%未満、「\*」マークは有意水準 5%未満。

図表 4-7-4 中学校教員の「情報教育授業実施頻度」に関する質問項目

調査項目	上位群	下位群	
目的に応じて情報収集方法を検討し、実際に情報収集をさせる	2.70	2.30	*
PC を活用して、グラフ化して分析させたり、統計的に処理させたり、シミュレーションさせたりする	1.66	1.44	*
情報を整理・処理しながら、解釈させる	2.57	2.22	*
情報を比較・関連付け、多角的に考察させたりして判断させる	2.48	2.06	**
情報をよりよく解釈するために考えていることを可視化するなど、 <u>自分の考えを表現させる</u>	2.68	2.24	*
ソフトなどを活用し発表内容を工夫させる	1.97	1.53	**
電子黒板などの掲示用装置を使用して発表させる	1.72	1.31	**
情報手段の特性に応じた <u>伝達及び円滑なコミュニケーションを行わせる</u>	2.38	1.98	**
PC などを活用して、生徒同士が教え合い学び合う学習を行わせる	1.87	1.54	*

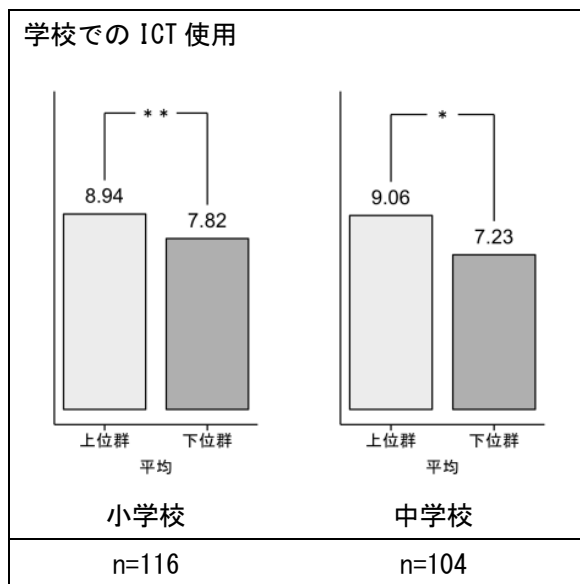
※ 数値は、質問項目（5点満点）の数値。

※ 図表内の「\*\*」マークは有意水準1%未満、「\*」マークは有意水準5%未満。

## 4-7-2 児童生徒用質問からみる上位と下位の児童生徒群の傾向

情報活用能力調査結果の上位の学校群は下位の学校群に比べて、児童生徒が学校で ICT を使用する頻度が高い傾向にある。家庭での ICT 使用に関しては有意な差はない。

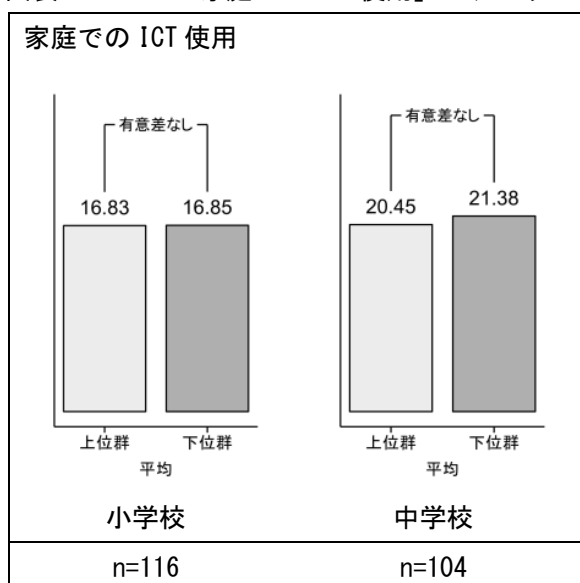
図表 4-7-5a 「学校での ICT 使用」 カテゴリーの有意差（児童生徒用質問）



図表 4-7-5b 「学校での ICT 使用」 各項目の有意差（児童生徒用質問）

質問	小学校			中学校		
	16 問平均			16 問平均		
	上位群	下位群		上位群	下位群	
1.1.1 ネットでの情報収集	2.86	2.52	**	2.79	2.48	*
1.1.2 PCでの表・グラフ作成	2.01	1.68	*	2.13	1.55	**
1.1.3 PCでの発表資料作成	2.27	1.99	*	2.23	1.66	*
1.1.4 PCでの発表	1.79	1.62		1.89	1.55	

図表 4-7-6a 「家庭での ICT 使用」 カテゴリーの有意差（児童生徒用質問）



※ 上位と下位の学校群とは、問題調査の対象カテゴリーの得点の上位 10%と下位 10%の学校群を指す。

※ グラフ内の数値は、得点が高い方がより肯定的な回答であったことを示す。

※ グラフ内の「\*\*」マークは有意水準 1%未満、「\*」マークは有意水準 5%未満。

図表 4-7-6b 「家庭での ICT 使用」各項目の有意差（児童生徒用質問）

質問	小学校			中学校		
	16 問平均			16 問平均		
	上位群	下位群		上位群	下位群	
2.2.1 家でのネットによる情報検索	2.85	2.43	**	3.23	3.05	*
2.2.2 ネットでの動画・音楽視聴	2.88	2.71		3.22	3.22	
2.2.3 ネットでのゲーム	2.51	2.50		2.80	2.79	
2.2.4 携帯等で写真・動画撮影	2.37	2.50		2.61	2.83	
2.2.5 PCでのメール送受信	1.48	1.62		2.14	2.02	
2.2.6 携帯等でのメール送受信	1.99	2.12		2.69	2.78	
2.2.7 インスタントメッセージ	1.53	1.70		2.15	2.69	†
2.2.8 SNS やツイッター	1.21	1.29		1.62	2.03	**

# 卷末資料

## 調査結果分析等委員

(平成 27 年 3 月現在)

堀田 龍也	東北大学大学院情報科学研究科 教授
稲垣 忠	東北学院大学教養学部 准教授
小柳 和喜雄	奈良教育大学大学院教育学研究科 教授
黒上 晴夫	関西大学総合情報学部 教授
坂元 章	お茶の水女子大学大学院 教授
白水 始	国立教育政策研究所 総括研究官
土屋 隆裕	統計数理研究所 准教授
豊田 充崇	和歌山大学教育学部 准教授
森本 康彦	東京学芸大学情報処理センター 准教授

## 問題作成等委員

(平成 24 年度問題作成時)

### ■小学校部会

堀田 龍也	玉川大学教職大学院 教授 (東北大学大学院情報科学研究科 教授)
稲垣 忠	東北学院大学教養学部 准教授
木村 明憲	京都市立一橋小学校 教諭 (京都教育大学附属桃山小学校 教諭)
小暮 敦子	三鷹市立第六小学校 主任教諭 (同 主幹教諭)
塩谷 京子	関西大学初等部 教諭
菅原 弘一	仙台市立吉成小学校 教頭 (文部科学省 生涯学習政策局 情報教育課 専門職)
中川 斉史	東みよし町立足代小学校 教諭 (三好市立下名小学校 教頭)
西田 光昭	柏市立中原小学校 校長
濱松 章洋	調布市立上ノ原小学校 校長
山本 朋弘	熊本県教育庁教育政策課 指導主事

### ■中学校部会

小柳 和喜雄	奈良教育大学大学院教育学研究科 教授
豊田 充崇	和歌山大学教育学部 准教授
江守 恒明	前 関西大学中等部・高等部 教諭
河野 卓也	大津市立志賀中学校 教諭
金 隆子	山形県米沢市立第二中学校 教諭
宗我部 義則	お茶の水女子大学附属中学校 教諭
本田 千春	東京学芸大学附属国際中等教育学校 教諭
本多 博	長与町立長与中学校 教頭 (諫早市立西諫早中学校 教頭)
渡邊 茂一	相模原市立上溝南中学校 教諭 (相模原市教育委員会 総合学習センター 指導主事)

なお、( ) 内は平成 27 年 3 月現在の肩書である。

## ＜参考＞情報活用能力調査に関する協力者会議 設置要項

情報活用能力調査に関する協力者会議について（抄）

平成 24 年 5 月 17 日  
生涯学習政策局長決定

### 1. 趣旨

文部科学省における情報活用能力調査の実施方針等についての検討に資するよう、専門家による専門的な観点から意見交換等を行うため、「情報活用 能力調査に関する協力者会議」を設置する。

### 2. 協力者会議において取り扱う事項

- (1) 情報活用能力調査の実施方針について
- (2) 情報活用能力調査結果の分析方針について
- (3) 情報活用能力調査結果の活用方法について
- (4) その他

### 3. 実施方法

- (1) 別添の学識経験者等の協力を得て、上記 2. について意見交換等を行う。
- (2) 必要に応じて、別紙以外の関係者にも協力を求めることができる。



## 情報活用能力調査に関する協力者会議 委員

(五十音順・敬称略)

池田 英雄	佐賀県教育委員会 教育長 (平成 26 年 4 月～)
市川 伸一	東京大学 大学院教育学研究科 教授
稲垣 忠	東北学院大学 教養学部 准教授
大塚 尚子	国立教育政策研究所 国際研究・協力部 総括研究官 (平成 26 年 4 月～)
小柳 和喜雄	奈良教育大学 大学院教育学研究科 教授
柿沼 宜夫	つくば市教育委員会 教育長
荏宿 俊文	青山学院大学 社会情報学部 教授
川崎 俊広	佐賀県教育委員会教育長 (～平成 26 年 3 月)
黒上 晴夫	関西大学 総合情報学部 教授
坂元 章	お茶の水女子大学 大学院人間文化創成科学研究科 教授
篠原 真子	国立教育政策研究所国際研究・協力部総括研究官 (～平成 26 年 3 月)
白水 始	国立教育政策研究所 初等中等教育研究部 総括研究官
田中 博之	早稲田大学 教職大学院 教授
土屋 隆裕	情報・システム研究機構 統計数理研究所データ科学研究系 准教授
豊田 充崇	和歌山大学 教育学部 准教授
堀田 龍也	東北大学大学院情報科学研究科 教授
三浦 登志一	山形大学 大学院教育実践研究科 教授
森本 康彦	東京学芸大学 情報処理センター 准教授
山内 祐平	東京大学大学院情報学環 教授